地域力支援研修　テーマ「地域運営組織」

～専門性の高い一人百首から、コミュニティみんなで百人一首～

コーディネーター
ＮＰＯ法人ＳＥＩＮコミュニティLab所長
宝楽　陸寛

流れ

1. ［全国的動向］

   多様性に応じた地域組織形態が求められている

2. ［基本的な考え方］

   組織が変化するための鉄板プロセス

3. ［未来の取り組みから考えてみる］

   住民の声をベースに課題解決の先行事例

4. ［ふりかえり］

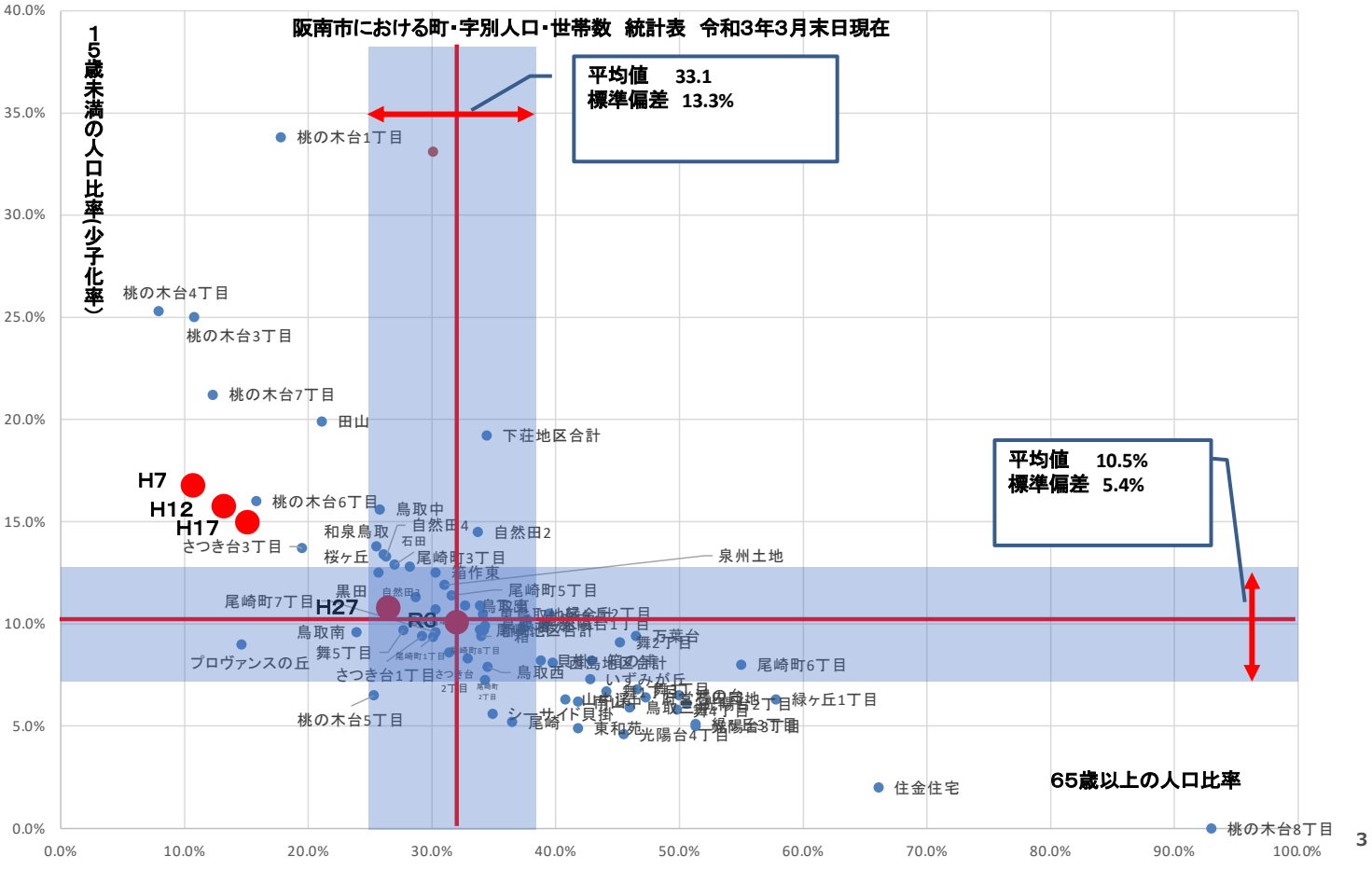
   発展ステップのふりかえり

5. ［ワークショップ］

   未来を予測するグラフを作ろう

阪南市の人口動態

▶全市で1つの地域課題を扱えない・地域特性にあった地域課題解決に向き合う



子どもの人口↑これから高齢化

とある小学校の教室でこんなことがあったと、担任の先生から連絡がありました

すみません。Bちゃんが、たまたまAちゃんにぶつかって、
Aちゃんがケガしちゃったんです。
ちょっと、たんこぶができてしまいました。

Aちゃんの保護者
なら
どんな風に
考えますか？

「顔の見えない」関係だと、、、、

Aちゃんママ

加害者はだれ？
担任の先生ちゃんと見てたの？

担任の先生

(管理者責任問われるから)
休憩時間の遊びの中のできごとであり
誰がやったかは教えられません
→今後は休憩時間の遊びを禁止します

Bちゃんパパ

子ども同士のトラブルなら先生が、けんか両成敗してくれたらいいのに、、、、

大人たちが普段の暮らしで顔を合わせ、一声かけあう関係を持っている

Aちゃんママ

ああBちゃんですか、仕方ないですねよね、
お互い様ですから気にしないでください

担任の先生
と
管理職

子どもは「人として育つ」ということは、子どもたちがトラブルを起こしたときに、そのトラブルを自らの力で解決できるようになっていこと

Bちゃんパパ

そうでしたかー、じゃぁAさんにも連絡しておきますね。
すみませんでしたね。
（Aちゃんで良かったー）

ごめんねで済むか、事件になるかは
『その前の』関係性できまる。
事件で付き合うのではなく、トータルに出会う場面をつくっていれるか、、、
子ども会の解散、地縁組織による機会が減り、顔が見えなくなっている

子どもの人口↓これから高齢化急加速

＊20年近く一人暮らし・団地の3階
＊2人息子や親族は関東に生活拠点・夫を早くに死別。
元々、腎臓も悪く、女手一つで子どもを育てる。
＊認知症がコロナ禍で急加速し
本人は「施設にはお世話にならない」
家族は関東に住んでいるため「無理強いできない」
最近、家で転倒。
鎖骨と、右足薬指にヒビが入り絶対安静になる。

あなたの地域なら
どんな風に
対応できますか？

7

「顔の見える」関係でも、、、本人の尊重と専門性の壁

家族

その日の深夜･･･
母親と再開
その後、手術を断念

ご本人

① 近所のかかりつけ医に「心臓の検査をしたいから予約してほしい」と大きな病院への予約を依頼する。
② 「鍵開けてくれー」「ちょっと待って」このやりとりが30分続く。
③ ケアマネやヘルパーが車で、最初の発見者の住民さんが待機する。しきりに「腰とお腹が痛い」とおっしゃられる。
④ 病院を拒否、、、でも説得され病院に
⑤ 病院の診断では、腸が破裂し、便が出て、細菌が悪さをしている。緊急手術が必要との診断。
⑥ 手術を断念、深夜24時半死亡

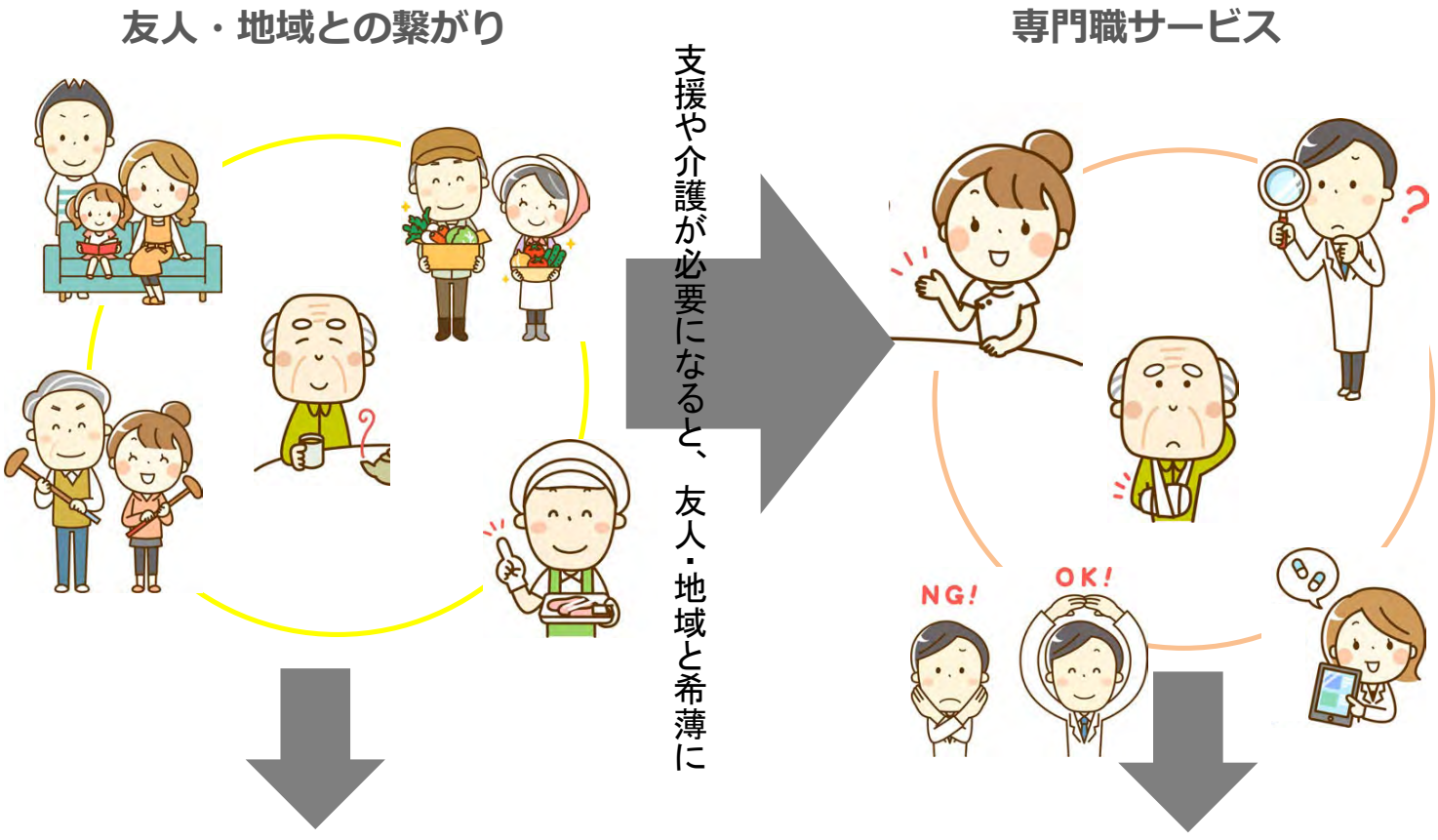
地域ボランティア

① 予約日が決まったことを伝えるために、電話をしても出ない。同じ病院に通う近所の住民さんに「見に行ってほしい」と連絡が入る。
② インターホンや電話をしても出ない。ケアマネさんに電話ベランダづたいに入ることも想定して、隣の住民さんの鍵も預かる。
③ 待ちきれず、窓を割って侵入。トイレの前で倒れている住民さんを発見する。「救急車よぶか？」という問いにも「絶対呼ばないで」と答えるため、ケアマネやヘルパーが車で、最初の発見者の住民さんが待機する。

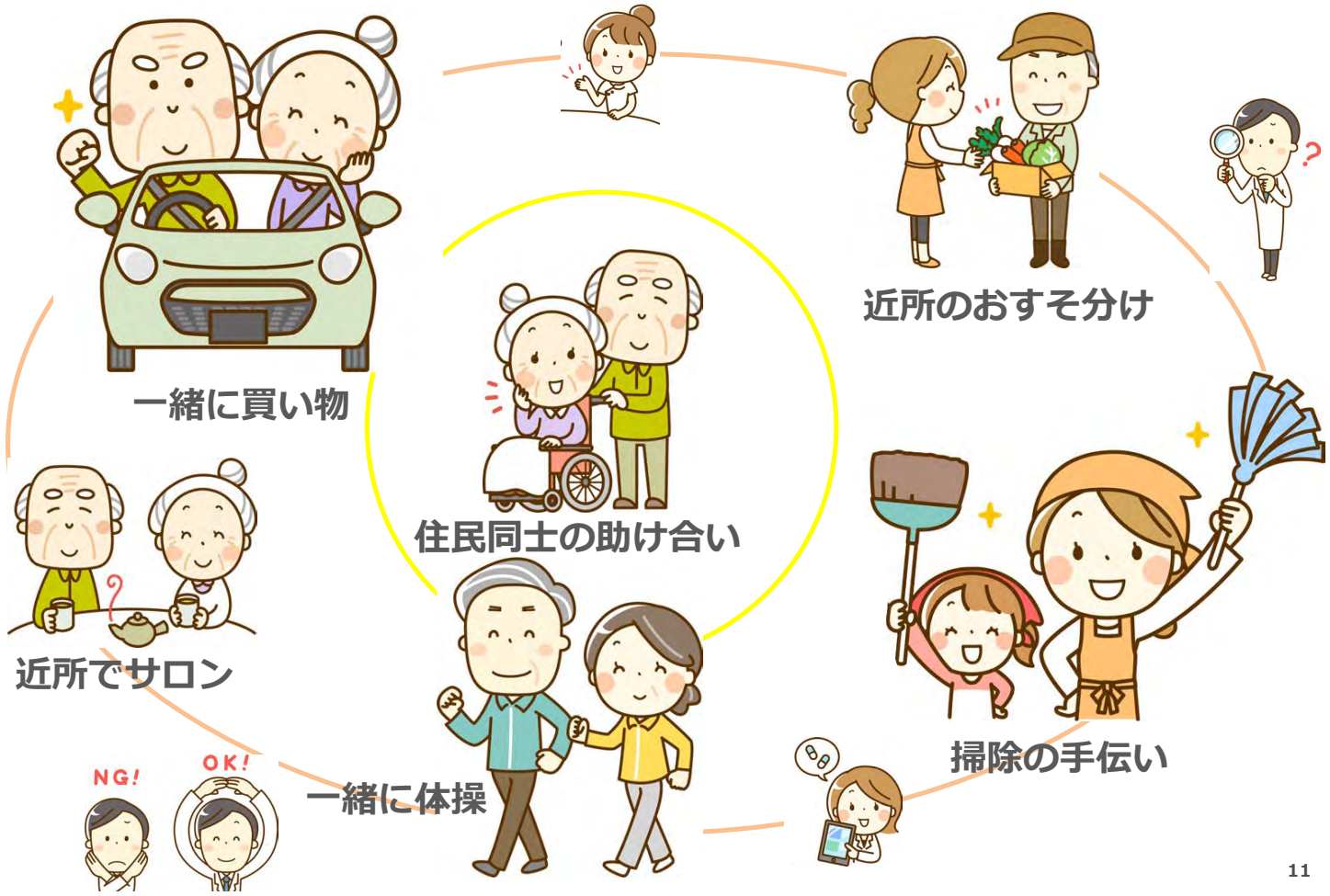
多様性に応じた地域組織形態が求められている

さいしょに

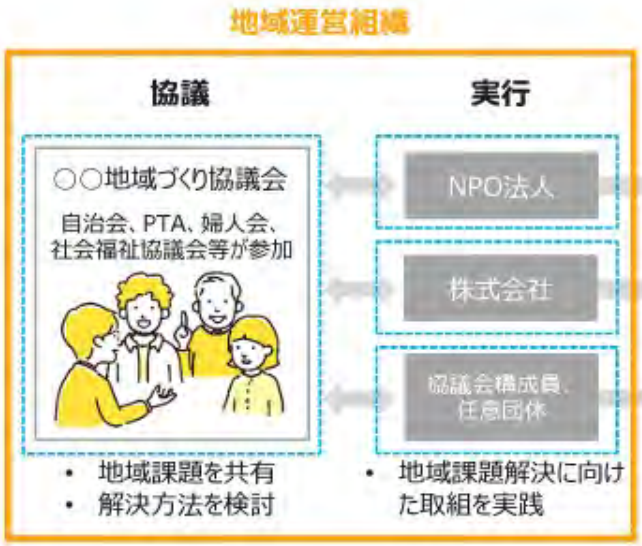
2，これからの地域のあり方と現在の課題



2，これから～地域生活から切り離されず、専門職だけで支えない！



何か起きてからでは、専門家による支援しか受けられない
この状況へ危機意識を持つ地域では
特に大阪では分離型・協働型によるチャレンジが起きています



出典　令和3年度地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書
地域運営組織　分離型イメージを宝楽が編集

団地内惣菜屋さん

不動ヶ丘自治会福祉部ほっとらいふ

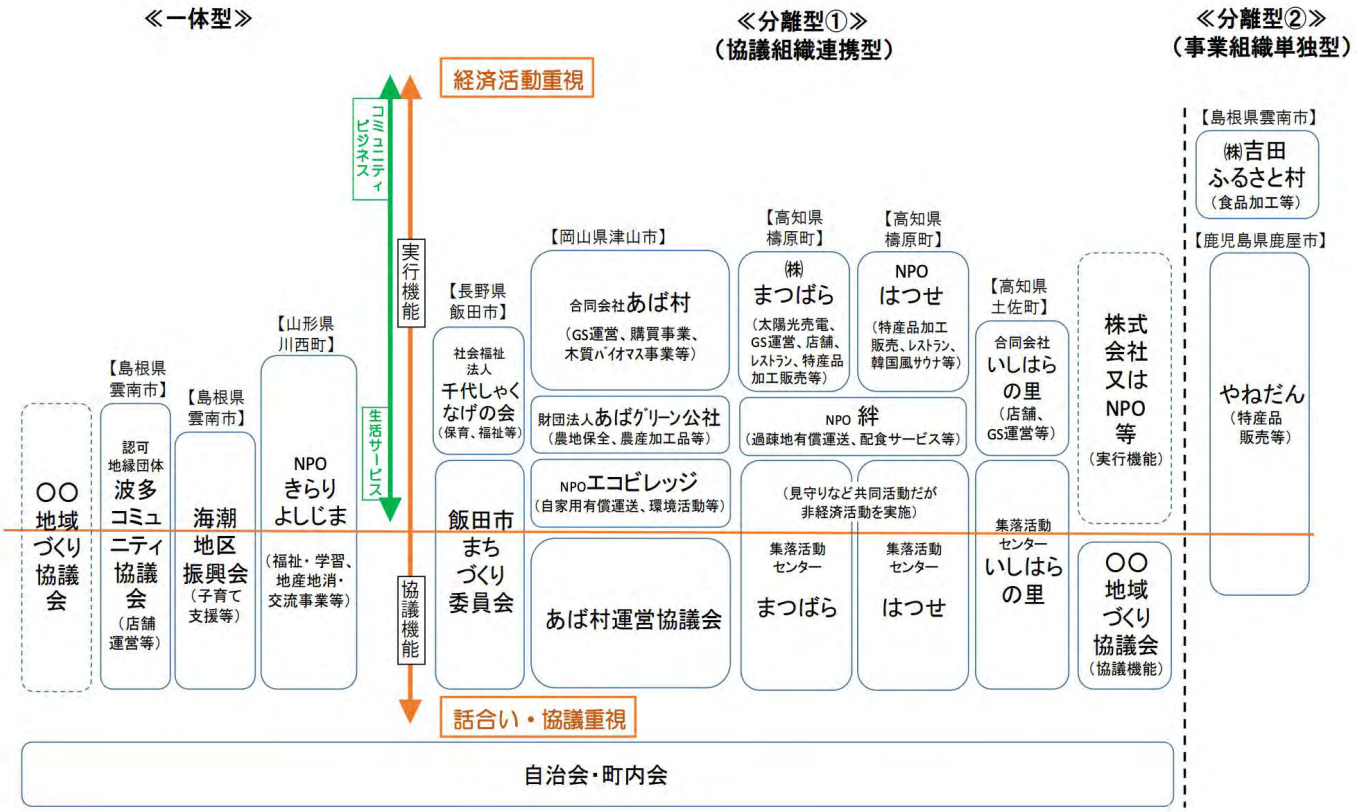
野菜移動販売　八百屋

DIYのいえ（工務店による生活支援）

自治会任意団体による生活支援

南花台モビリティ　クルクル

中山間地域などの過疎地域において進む様々な地域運営組織の組織形態の分類



出典　地域の課題解決のための地域運営組織に関する有識者会議最終に報告書

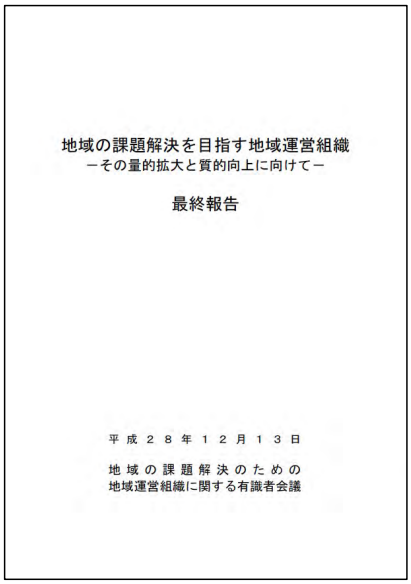
地域運営組織とは？

地域運営組織とは

- 地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。
- 地域運営組織の組織形態としては、協議機能と実行機能を同一の組織が合わせ持つもの（一体型）や、協議機能を持つ組織から実行機能を切り離して別組織を形成しつつ、相互に連携しているもの（分離型）など、地域の実情に応じて様々なものがある。

出典　令和3年度地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書

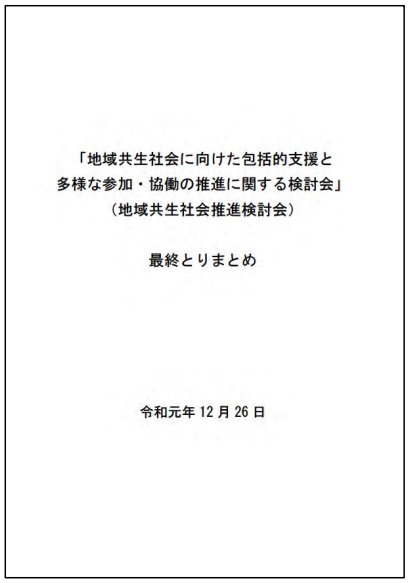
基本的な考え方　全国的な動向


地域の課題解決を目指す地域運営組織
－その量的拡大と質的向上に向けて－

最終報告

平成２８年１２月１３日

地域の課題解決のための
地域運営組織に関する有識者会議


「地域共生社会に向けた包括的支援と
多様な参加・協働の推進に関する検討会」
（地域共生社会推進検討会）

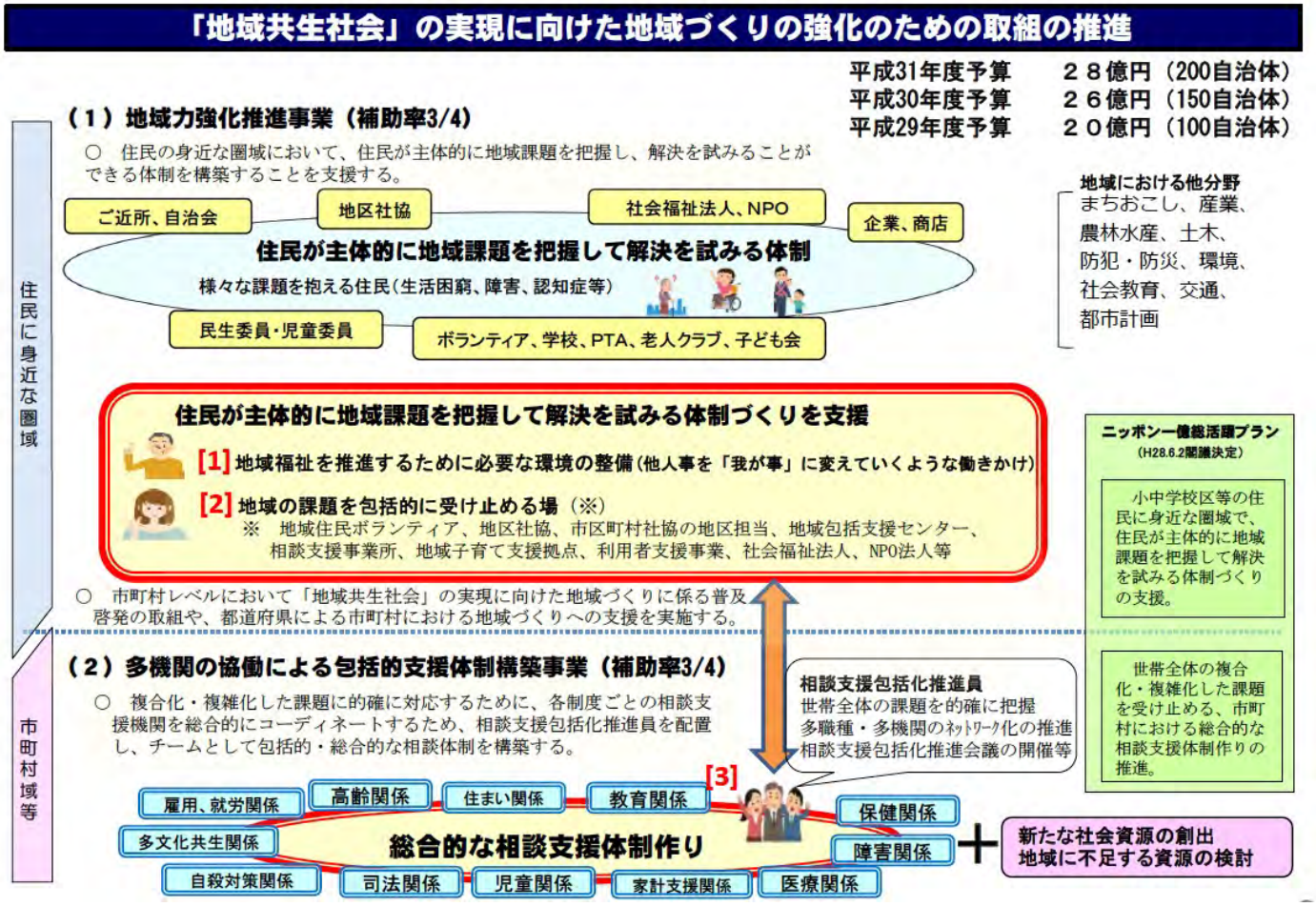
最終とりまとめ

令和元年 12 月 26 日

持続可能な地域をつくるため、「地域デザイン」（今後もその集落で暮らすために必要な、自ら動くための見取り図）に基づき、地域住民自らが主体となって、地域住民や地元事業体の話し合いの下、それぞれの役割を明確にしながら、生活サービスの提供や域外からの収入確保などの地域課題の解決に向けた事業等について、多機能型の取組を持続的に行うための組織の調査研究が進められている。

共同体の機能の一層の低下、人口減少による地域の持続への懸念などの近年の社会の変化や、地域の実践において生まれつつある新しい価値観の萌芽を踏まえ、今後の社会保障制度のあり方をどのように考えていくかという、中長期的な観点も念頭に置きつつ 、当面の課題として、平成 29 年介護保険法等改正法の附則に規定される公布後3年（ 令和2 年 ）の見直し規定に基づく、市町村における包括的な支援体制の全国的な整備を推進する方策にを検討する

もう一つの全国レベルの大きな動き

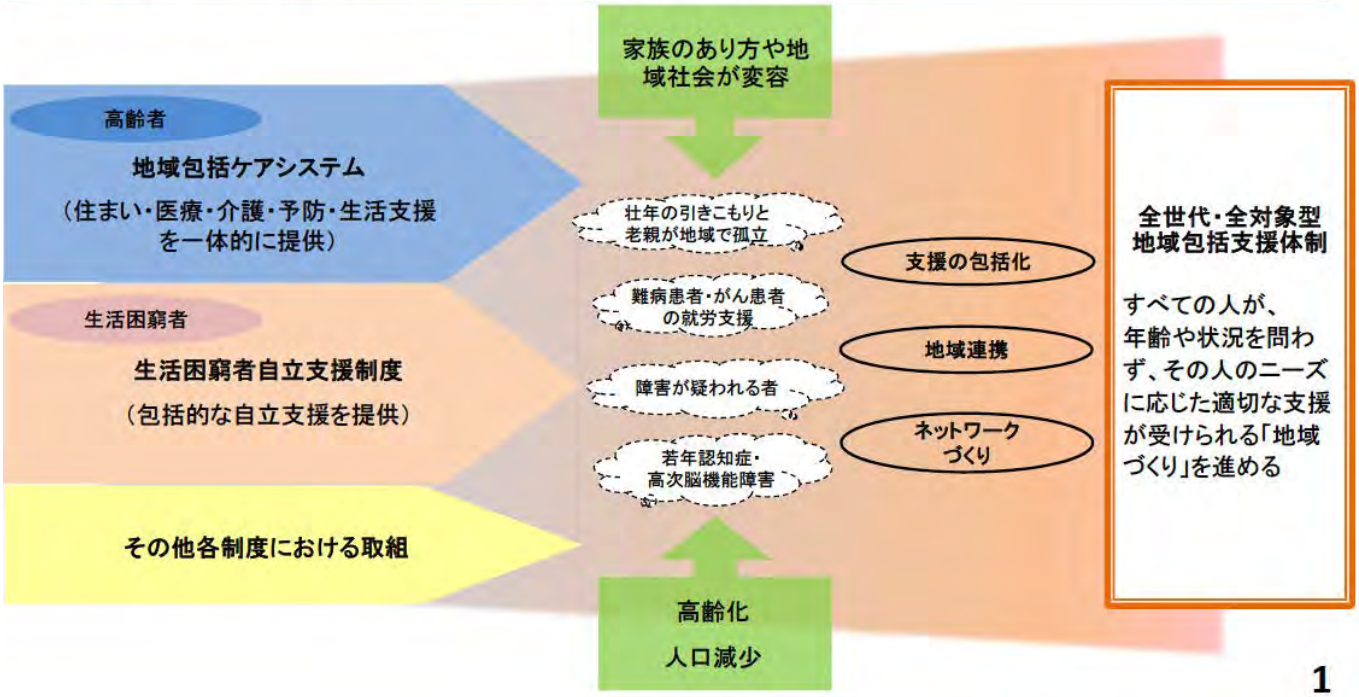


出典 「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」（地域共生社会推進検討会）最終とりまとめ

一方で・・・国も専門家支援のあり方を根本的に見直す動きが出ています

○ これまで、高齢者施策における「地域包括ケアシステム」の構築、生活困窮者に対する「生活困窮者自立支援制度」の創設など、各制度においても、支援の包括化や地域連携、ネットワークづくりを推進している。

○ 今後とも、地域包括ケアシステムなどを着実に進めつつ、こうしたコンセプトの適用をさらに拡げ、多様なニーズを掬い取る「全世代・全対象型地域包括支援体制」を構築していく。



1

「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」（地域共生社会推進検討会）
第１回地域力強化検討会資料

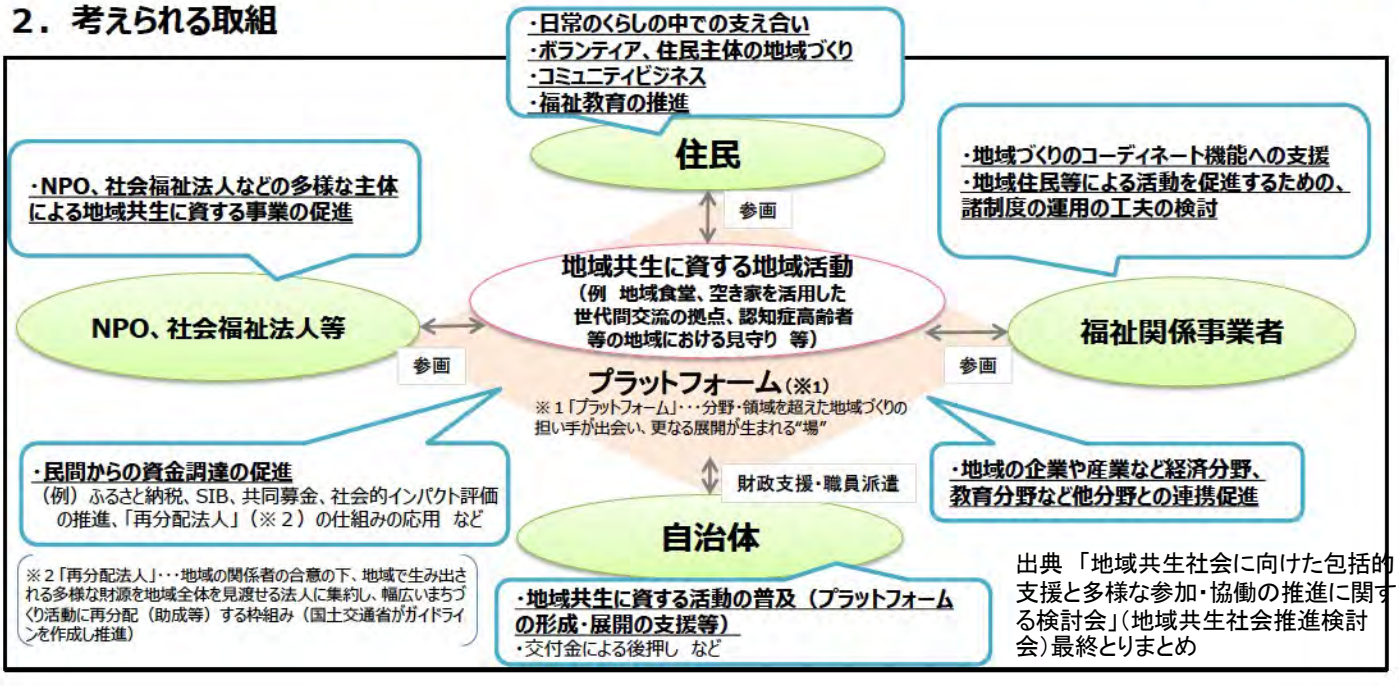
住民参画のチャンスか？それとも・・住民への丸投げか？

地域共生に資する取組の促進
～多様な担い手の参画による地域共生に資する地域活動の普及促進～

１．概要

○地域における重層的なセーフティネットを確保していく観点から、住民をはじめ多様な主体の参画による地域共生に資する地域活動を普及・促進。
○地域共生に資する地域活動の多様性を踏まえ、住民などの自主性や創意工夫が最大限活かされるよう、画一的な基準は設けず、各主体に対し積極的な活動への参画を促す方策など環境整備を推進。

２．考えられる取組

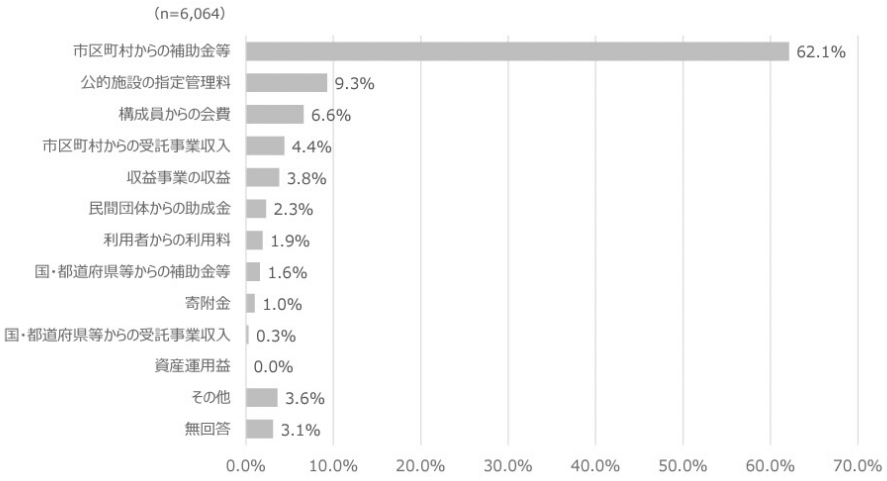


出典 「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」（地域共生社会推進検討会）最終とりまとめ

理想は理解できても・・・最終的には事業予算のあり方
先駆的な地域では事業と収入構造の多様化でチャレンジしています

地域運営組織の収入源

地域運営組織が収入源の第1位として選択した項目は、「市区町村からの補助金等」(62.1%)が最も高い割合を占めている。



出典　令和3年度総務省調査(地域運営組織対象：6,064団体が回答)

収入構造の多様化例

雪下し

草刈り

無料シャトルバス

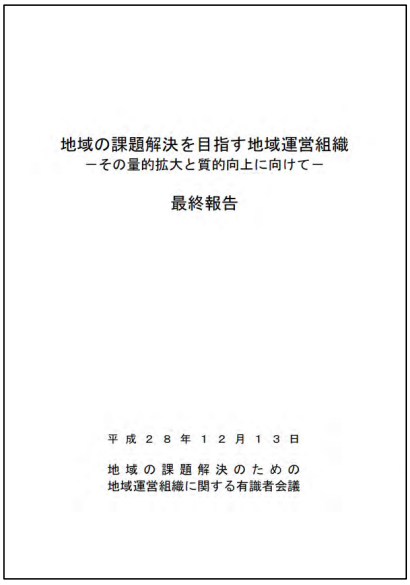
高齢者と園児の交流

秋田県横手市では、市内4地区(大森町保呂羽地区・山内南郷地区・山内三又地区・増田町狙半内地区)に共助組織が設立され、地域住民の有志による「地域おたすけ隊」が実働部隊として、高齢者世帯の屋根の雪下ろしや買い物支援、見守りなどの生活支援サービスを有償ボランティアで実施しています。

出典　平成27年度 暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業 報告書

[参照] もっと事例を知りたい場合は・・・

他地域の地域運営組織事例を学びたい


地域の課題解決を目指す地域運営組織
ーその量的拡大と質的向上に向けてー

最終報告

平成28年12月13日

地域の課題解決のための
地域運営組織に関する有識者会議

持続可能な地域をつくるため、「地域デザイン」(今後もその集落で暮らすために必要な、自ら動くための見取り図)に基づき、多機能型の取組を持続的に行うための組織の調査研究が進められている。

大阪でも進む地域運営組織に備えたノウハウ

大阪ええまちプロジェクトとは大阪府内のいろいろなまちで活躍する地域団体・NPOの課題解決につながる、団体の運営基盤強化に役立つサポートを提供されているプロジェクトです。
地域団体が抱える運営上の課題解決策のノウハウ提供や、「先輩団体のアドバイス」実績を持つ“先輩団体”が、地域団体のお悩みに個別に答えます。

チャンスです！

やらないといけない状況はわかる・・・

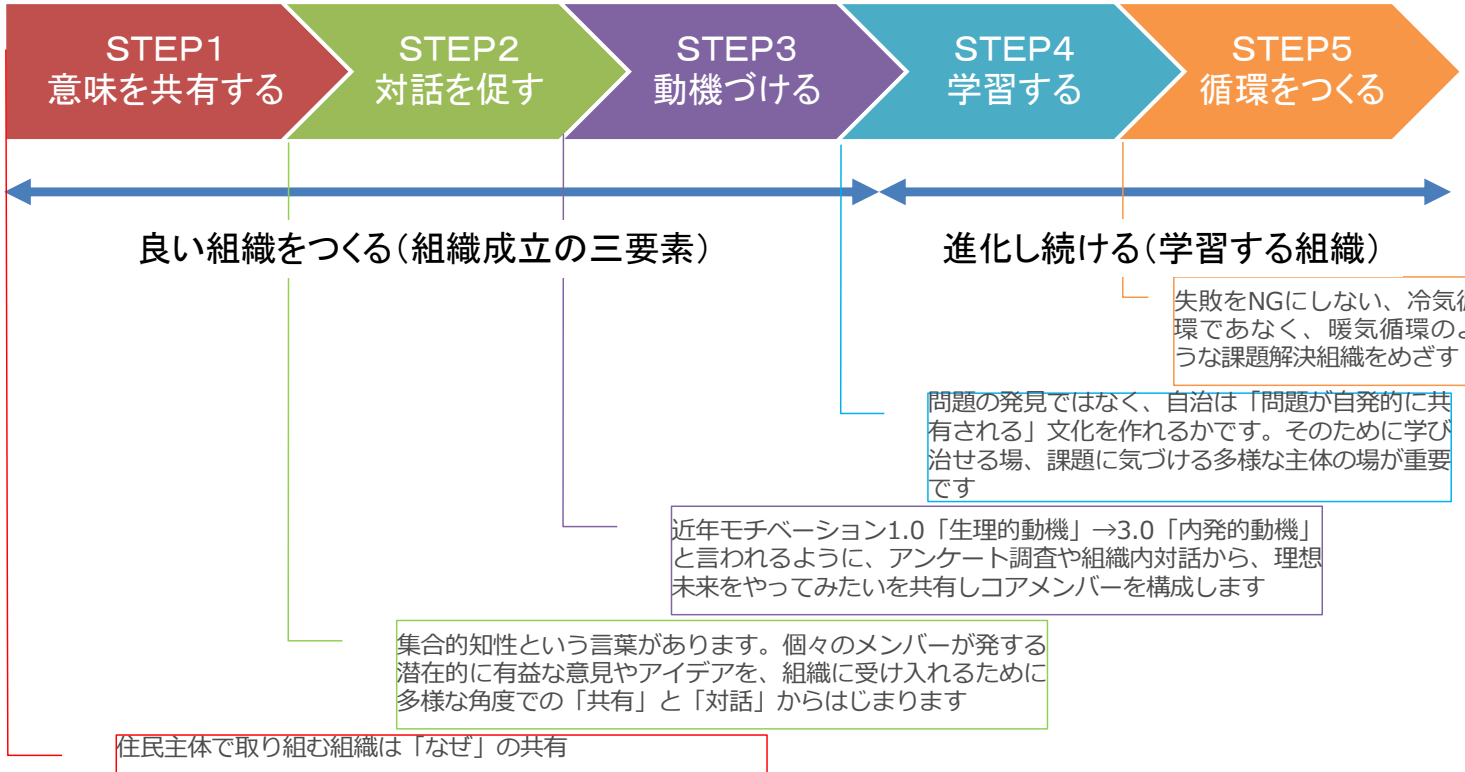
しかし
取り組む順番がわからない
取り組むメンバーの顔も思いつかない

先行している地域からのケース事例を紹介します

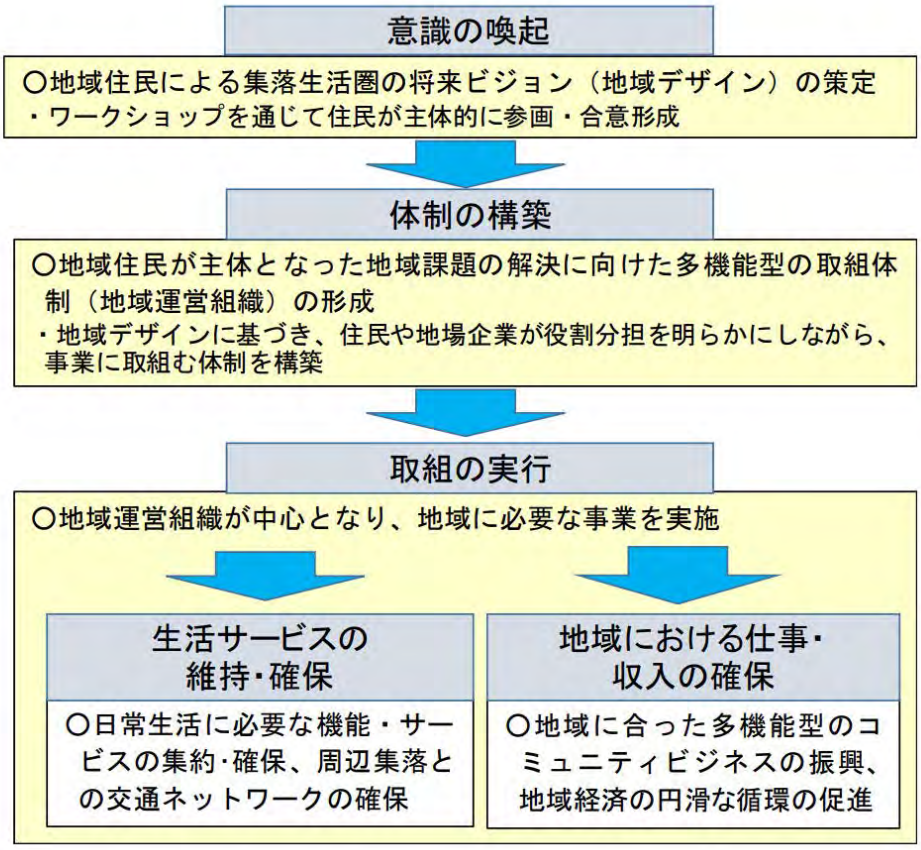
21

組織が変化するための鉄板プロセス

組織が変化するための5つのステップ



地域住民の活動ステップ



出典　地域の課題解決のための地域運営組織に関する有識者会議最終に報告書

次世代を見据えた地域づくり～地域における時間の使い方に変化を起こす

地域運営組織の形成に向けて、地域では今、何ができていて・何ができていないかを確認してみましょう。そして、これから何に取り組まなければならないかを整理します。

ポイント1

行事の棚卸し

行事< **事業＝福祉＋経済**

行事より事業という考え方で、　福祉と地域内循環をいかに作るか

ポイント２

会議の棚卸し

時間を最大限に活用するために、 話す・調整するより、現場で動く時間を！
年間スケジュールの見える化と、会議の持ち方を考えなおす。

ポイント３

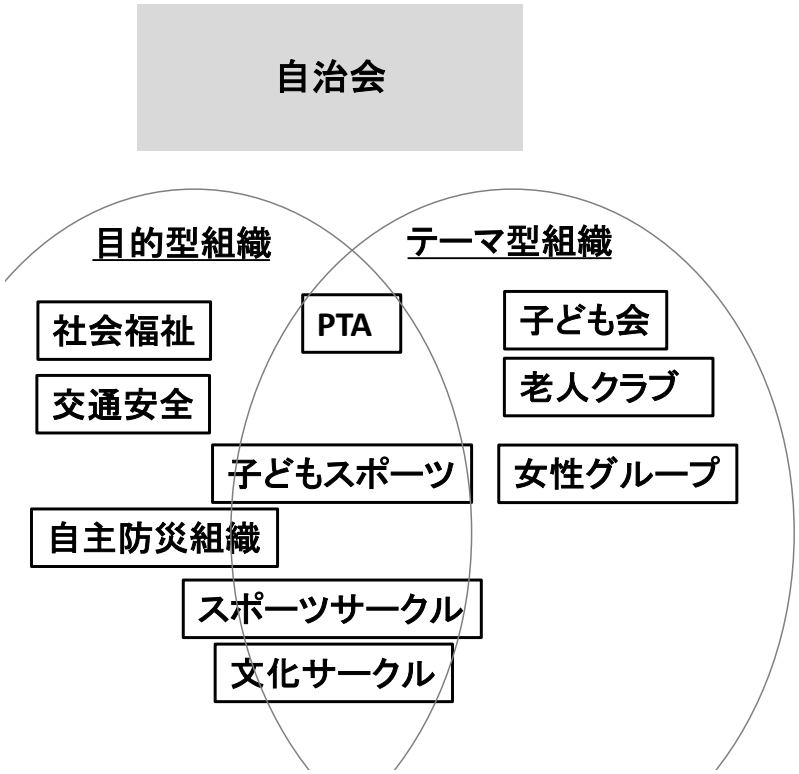
組織の棚卸し

会の数は役職数の数と同じ。会・団体・地域自主組織の見直しを、５年先、１０年先の役員・住民のためにとって必要な事業の形とは？

小規模多機能自治への期待

これまでの地縁組織

おおむね（小）学校区域で
多様な団体が併存



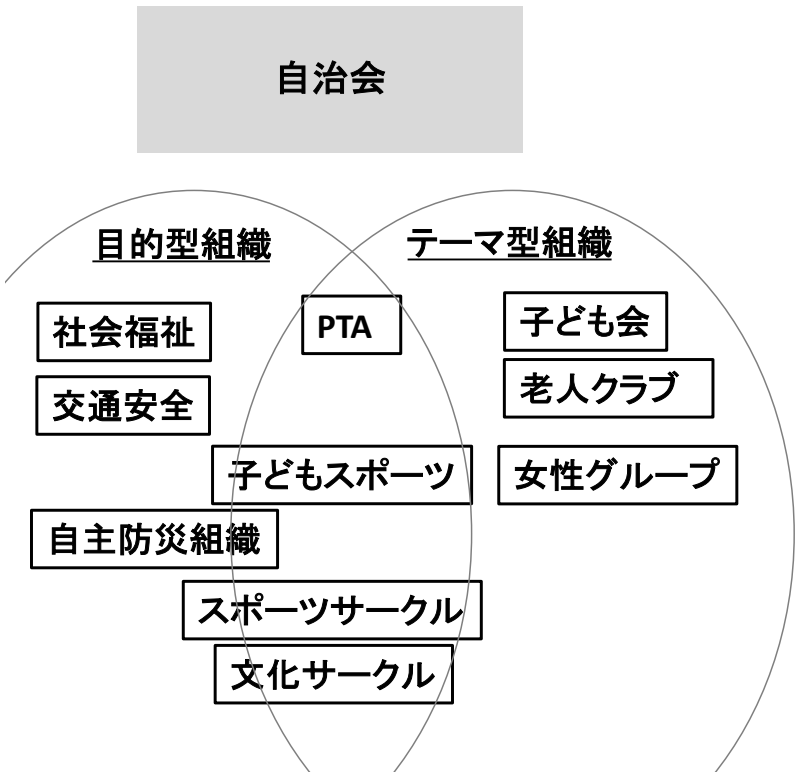
大阪南部の地域リーダーヒアリングを通じて噴出する地域の課題

- 人口減少、高齢化が進んでおり、町単位の作業要員不足や自治会費の縮小により、自治会は形骸化しはじめている
- 地域団体の活動は行政の上部団体活動に合わせ縦割りで自立性を持ちにくく、既存の事業継続のみの活動が多い
- 各種団体のリーダー及び自治会単位の役員は輪番制で、責任感に年毎に差が出やすい
- 新しいことにチャレンジする気概が起こりにくい
- 地域のことを話し合う場への参加意識が低く、動員の結果“私ごと”として捉える当事者意識が育ちにくい

小規模多機能自治＝住民自治プラットフォーム支援

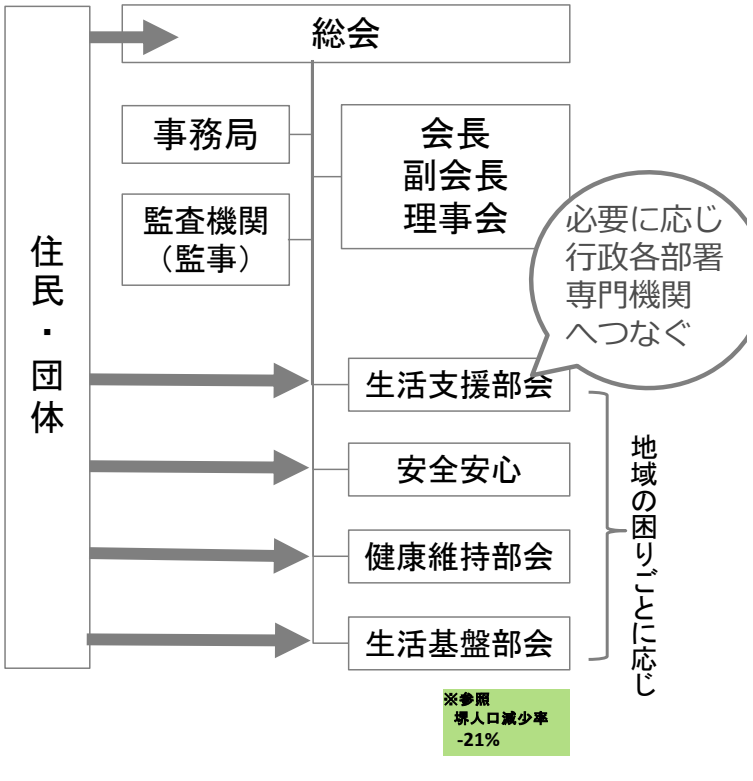
これまでの地縁組織

おおむね（小）学校区域で
多様な団体が併存



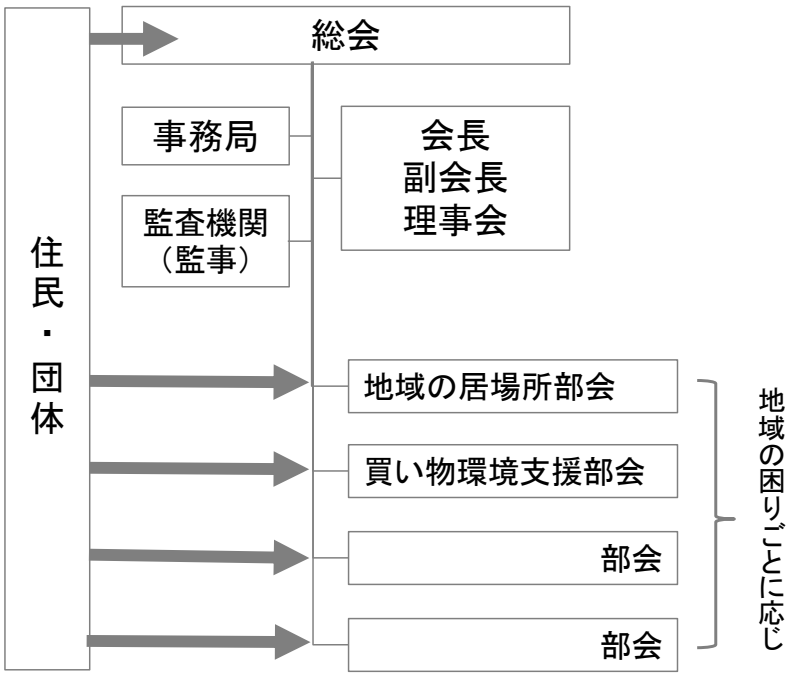
住民自治のプラットフォーム

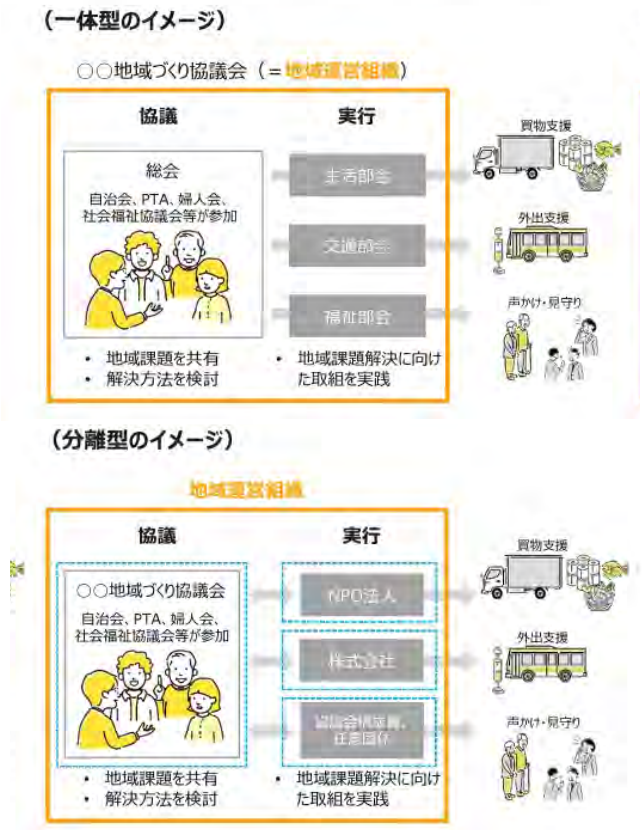
地域のチカラを結集し、地域課題を解決する
（1人1票制）の体制構築をテーマに分かれ推進する



そのために生活必需サービスを少しづつ増やす（多機能化）

地域に、これから必要になる部会はどんな事業か？を問いかけていく





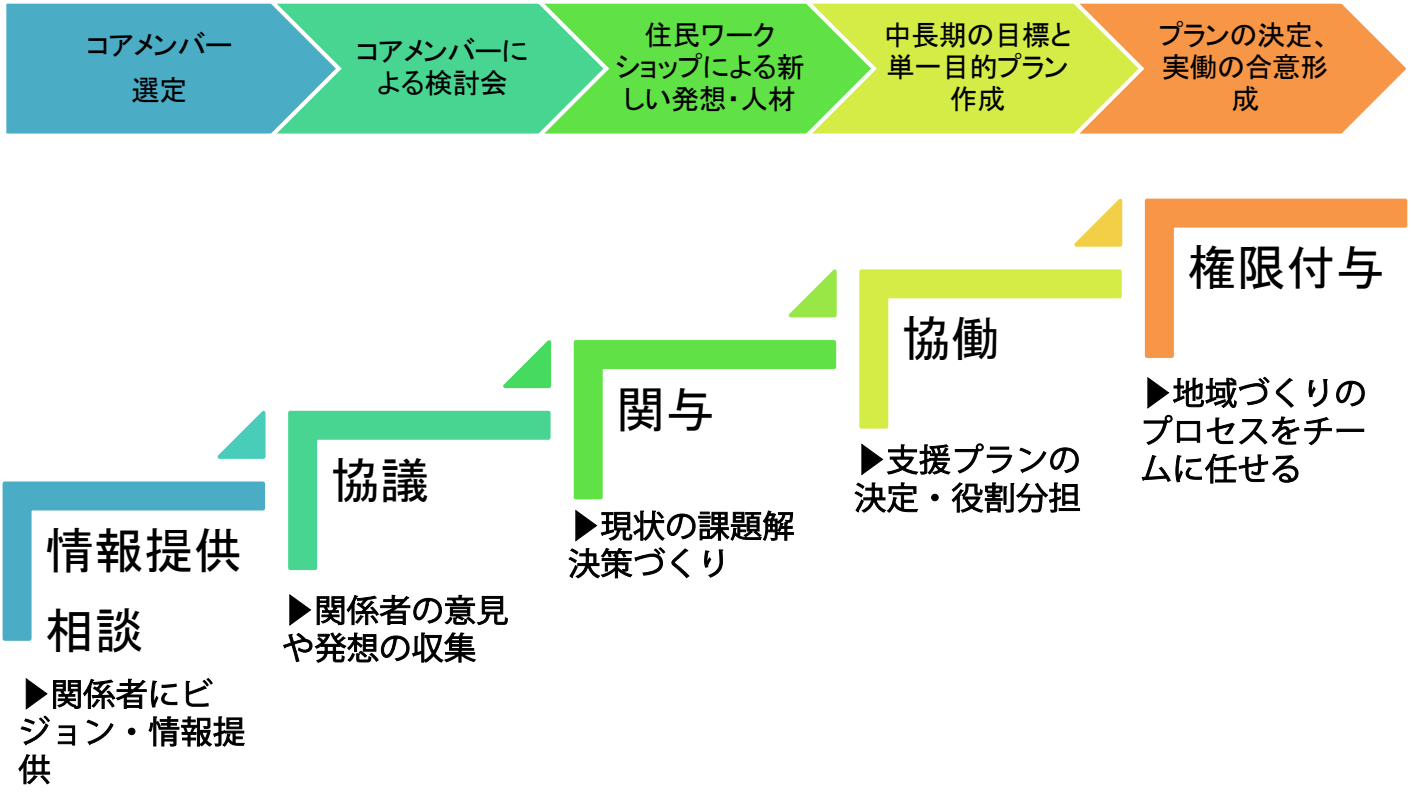
変化するためのおすすめプラン

	【1年め】 準備	【2･3 年め】 導入	【4･5 年め】 展開および拡充
知る・学ぶ	地域分析の実施→研修・勉強会（今回） ※課題によって行政を招いた勉強会 ・市区町村内外の事例検討 ・前後20 年の経緯・見通しの取りまとめ ・全住民アンケート	（継続し、経過を追いかける） ・全住民アンケートの分析会	同様の地域特徴を抱える他市と推進する連合体を作る
備える	地域：できる改善から進める 自治拠点の検討	校区分析実施＋アイデア共有研修（行事・会議・部会制など組織の棚卸し） 行政：中長期基本方針策定 →小規模多機能自治推進に向けて	行政事務委託・移管の検討 ふりかえり・改善会議
育てる	アンケートによる担い手調査 →アンケートにて困りごと＋その解決能力を持つ住民を発掘する 「〇〇円卓会議」開催（年3回程度継続） →防災、福祉等テーマ・部会単位（若者のチャレンジ支援施策と連動）	相互視察 →自慢大会で好事例発掘 合同研修 →人口・特性の似た校区で勉強会や研修会を開催 「自慢大会」開催（年2回） →市区町村内 全地域発表	業務や地域に必要な機能別の研修 例）他地域と合同法人格研修 「自慢大会」開催（年2回） →市区町村内 全地域発表

深める順番（逆から積み上げる）

⑤工夫を共有する学び合いの会議の場を儲ける
④事業と対象者整理
③組織体制検討
①課題把握
②事業計画の整理
③資源の整理

協働のプロセスを大事した参加の階段



CASE 1
地域の声の見える化　事例

全住民アンケートの次の一手の活用

CASE⑥　住民の声×地域の変化を見通す　『ほっとらいふ@不動ケ丘』

高齢化率約44.9%、開発から４０年でも高齢化が加速。

将来の不安を見える化し、移動支援を開始する

- 住宅開発から４０年
- 人口　６３２　人
- 世帯数　２６８　世帯
- 高齢化率　４４．９　％

[平成２６年１２月３１日　現在]

立上げ経緯

40年前	不動ヶ丘町 開発 （当時：子ども会　100名以上）
H24．9	高齢化率が40%に近づく （現在：子ども会　20名程）
H25．4	プロジェクトチーム立ち上げ
H25．7	住民アンケート調査

５年以内に移動に不安を抱える住民割合５０%

H25.7.6	「これからの私たちの交通を考える」ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
H25.8	「地域交通を考える勉強会」スタート 数回の勉強会と富田林市交通会議の参加
H26．6	「モデル事業」に応募
H26.11	移送用軽自動車の無償貸与 (H27.3月まで)

課題の見通しと事業の棚卸し

H26．3	ほっとらいふ設立承認
H26．6	ほっとらいふ設立

自治会内高齢者生活支援プロジェクトチーム設置

事業内容　７人のスタッフで運用

◇支援内容

1.　日常生活困りごと支援

・病院に行きたい　・買い物がしたい　・銀行や市役所へ行きたい
・粗大ゴミが重くて出せない　・テレビが映らない　など

2.　憩いの場支援

・買い物ツアー　・朝市　・フリーマーケット
・錦織公園散歩ツアー　・認知症予防講習会　など

3.　IT支援

・携帯電話購入のお手伝い　・携帯電話の使い方講習
・携帯電話による安否確認　・パソコン使用時の困りごと支援
・年賀状作成講習　など

朝市の風景

地場産の摂れたて新鮮な
野菜や果物がお買い得!!

送迎車とスタッフ

笑顔対応と安全運転を
心掛けています!!

利用者の声

◇日常生活での支援活動が始まり喜んでいます。今まで大変であった買い物などが楽になり、様々な催し企画も楽しみに参加したいです。不動ヶ丘町は住み心地よい町になってきました。（86歳　女性）

◇病院（4か所）、郵便局、市役所、銀行、スーパーなど外出時に、お世話になり助かっています。ほっとらいふが出来る前は、先の事を思うと心細く不安でいっぱいでした。今は安心な生活ができることの感謝しています。（78歳　女性）

◇最近私たちのまわりの空気がとても暖かいものとなり、高齢者である私たちが安心して穏やかに毎日が暮らせるようになりました。単身の高齢者は、お荷物で厄介な存在として扱われることが多かったのですが、このプロジェクトを立ち上げていただいて地域の一員としての存在感が持てて、本当に心から嬉しく感謝しております。（78　女性）

CASE 2
複数の活動を仕組み化している事例

行事を止めて、事業を作り雇用を生み出しながら

見守りを仕組み化！

安心安全見守り事業として、「まなか君の水道検針」

●社会課題

□独居老人の増加

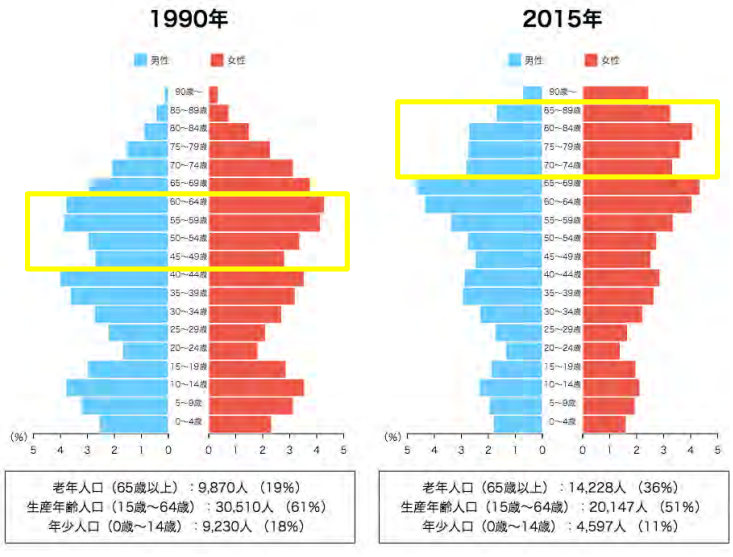
□行政の財政逼迫

出典　総務省 地域力創造グループHP

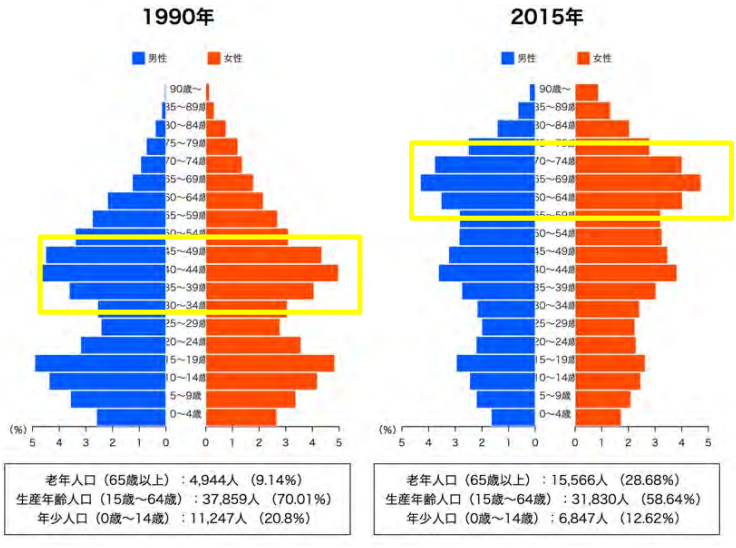
http://www.chiikinogennki.soumu.go.jp/jirei/shimane/32209/2014-0728-1932-1338.html

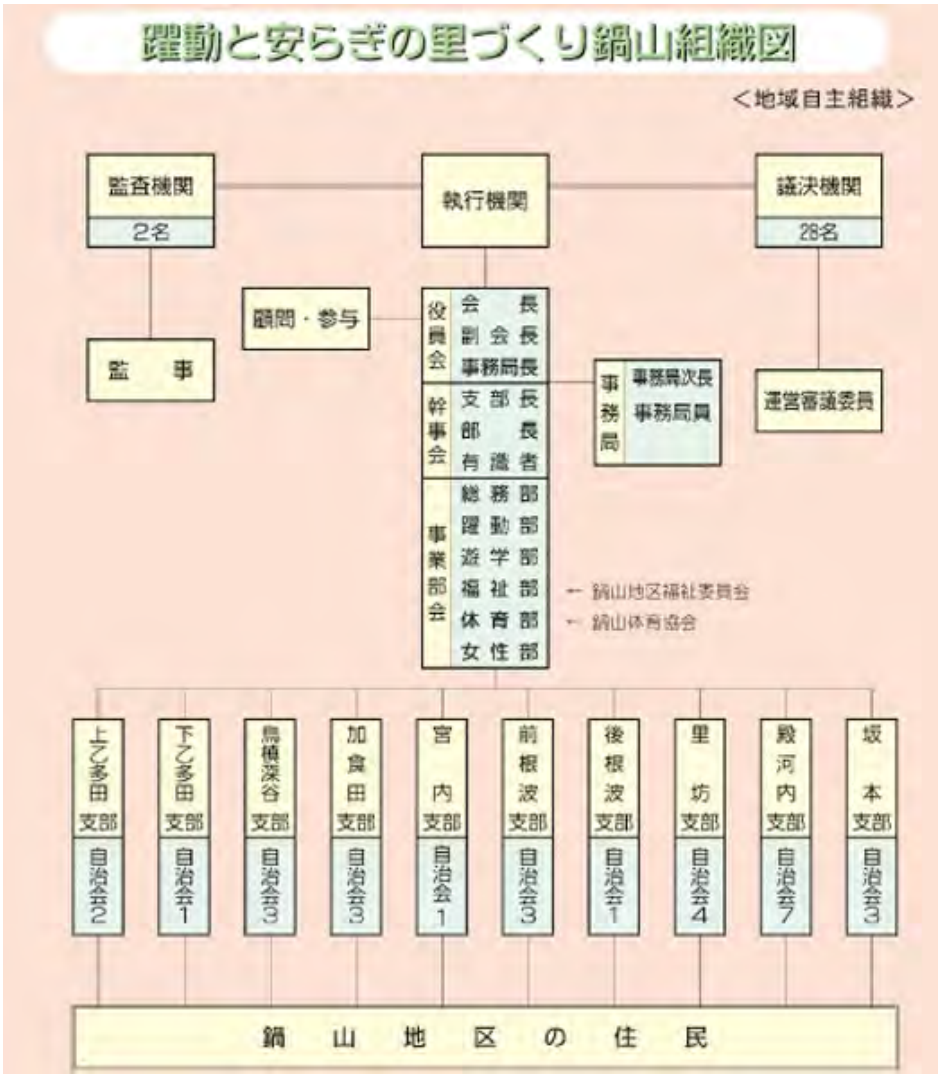
2，日本平均３０年早く後期高齢者が人口のメインになっている地域では

島根県雲南市



阪南市





アンケートの設計から当事者の声に耳を傾ける

地域の声に気づく

▼

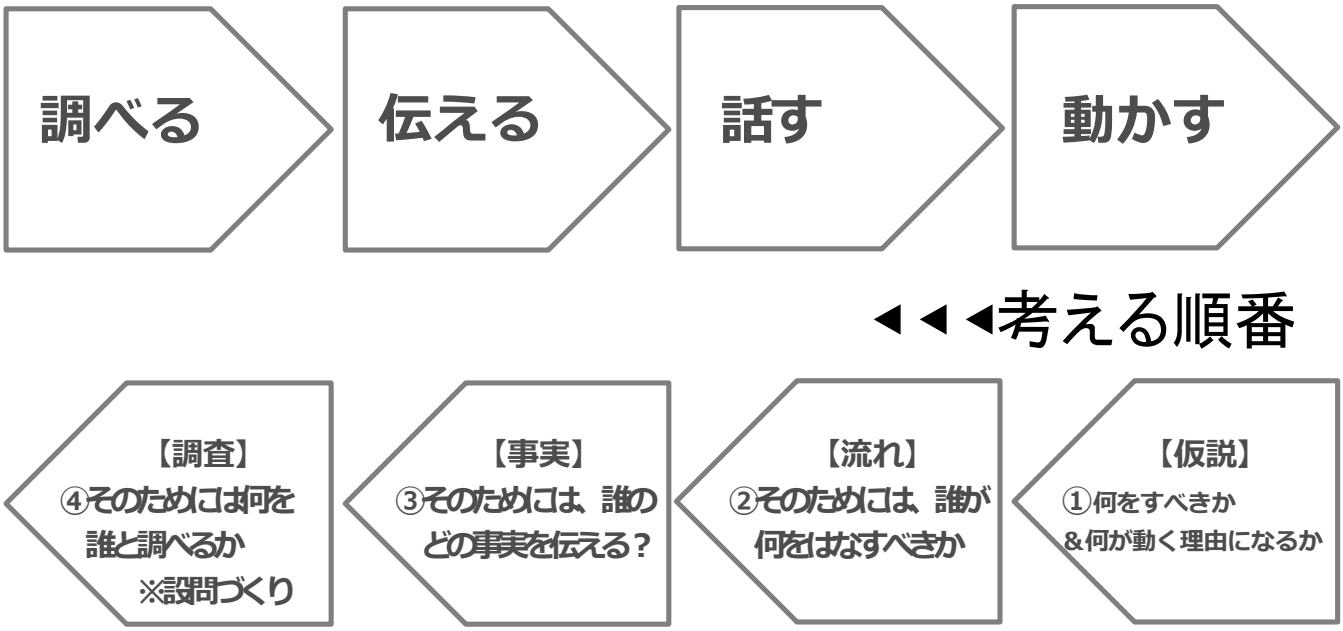
声を集める混ぜる
（アンケート）
住民の「大切！」の
ギャップに気づく

▼

声を地域の問いにする
（分析）
どの世代に課題が多いか？

調べるためでなく、地域の声を引き出すために、地域の声に気づき、声を集める混ぜて、判断材料を得るために行うことが重要です。

実施する順番▶▶▶



「満足度-重要度」＝住民の「大切！」ギャップはどこに？

年齢別	10-20	30-50	60+	老若差	丸数字 青「若高老低」赤「若低老高」				
					結婚対策	−25	−39	−45	① +21
地域の付き合い	−35	−40	−18	③ −17	不安・悩みの相談	−33	−42	−32	④ −1
草刈り・河川清掃	−43	−48	−32	−11	子どもの安全	−28	−50	−26	⑤ −2
美化・保全・清掃	−36	−37	−22	⑤ −14	相談できる人・場	−37	−49	−28	−9
消防・防災	−45	−55	−38	−7	保護者同士の交流	−26	−35	−22	−4
防犯	−57	−73	−45	−12	農地・山林維持管理	−28	−46	−39	② +12
広場の維持管理	−38	−45	−31	−7	農林業・特産物振興	−27	−39	−29	③ +2
まつり・イベント	−16	−13	+3	② −19	地域での収益事業	−26	−26	−22	−4
広報	−9	−8	−1	−8	生涯学習	−23	−21	−19	−4
敬老・子ども等行事	−20	−18	+6	① −25	スポーツ	−15	−10	−7	−7
健康体操・講座	−17	−16	−7	−10	全町スポーツ大会	−9	−5	−2	−7
高齢者支援	−40	−50	−23	④ −16	歴史・文化 保全活用	−22	−25	−15	−7
障害者支援	−43	−55	−34	−9	伝統文化・芸能継承	−20	−30	−12	−8

「満足度−重要度」の差の大きい項目

10−20代	①防犯（-57）	②消防・防災（-45）	③清掃、障害者（-43）	⑤高齢者（-40）
30−50代	①防犯（-73）	②消防・防災、障害者（-55）	④子どもの安全、高齢者支援（-50）	⑤相談相手・場（-49）
60代以上	①結婚、防犯（-45）	③農地・山林管理（-39）	④消防・防災（-38）	⑤障害者（-34）

住民の「思っている」ことと、やっていることのギャップが・・・

地域の声から生まれている地域運営組織の事業

ガソリンスタンド

生桑振興会では、設立以来、地域住民が相互に助け合う「地域福祉活動」、情報を共有し地域のつながりを高める「広報活動」、安全安心な地域づくりに向けた「防犯・防災活動」、連帯感の向上とコミュニティ活動の活性化に向けた「地域交流イベント」などの取り組みを行っている。

生桑地域には、JAが直営するガソリンスタンドと日用品店舗があったが、平成12年に撤退。しかしながら、地下のガソリンタンクの老朽化により更新が必要となった際に、費用負担が課題となり、平成24年2月末に閉鎖されることになった。ガソリンスタンドと店舗の閉鎖は、特に高齢者の生活に支障を来すことになることから、生桑振興会では、地域全体の課題として、「存続」、「閉鎖受入」に向けての議論を行い、その結果、平成23年6月に、振興会がガソリンスタンドと店舗の施設を整備することを決定し、平成24年1月にガソリンスタンドと店舗の複合施設である「ふれあい市」を開店するとともに、燃料（灯油・軽油）の配達も開始した。

業務委託と施設管理

深見ふかみ地区まちづくり協議会では、第1は、「草刈業務」である。従来は市が業者に発注していたものを協議会で受けることにしたもの。委託料の3割を協議会の活動資金に充て、残りの7割を草刈参加者の日当に充てている。自宅付近の広域農道を、日当を得て自ら草刈をするということで、住民は協力的になっている。 第2は、「施設管理・域学連携事業」である。市町合併の前に3つの中学校が統合され、その廃校舎を協議会の活動拠点としつつ、指定管理業務を受託している。この施設の中には、大分大学のサテライトラボがあり、宿泊可能にもなっている。 第3は、「地域振興事業」として、この施設を活用した料理教室を始めとする各種講習会等を開催している。当初は外部から講師を招き、受講料も無料としていたが、現在は、地域内の有償ボランティアによる講習会を開催し、受講料も500円とすることで、自己資金の確保と地域の経済循環が図られている。

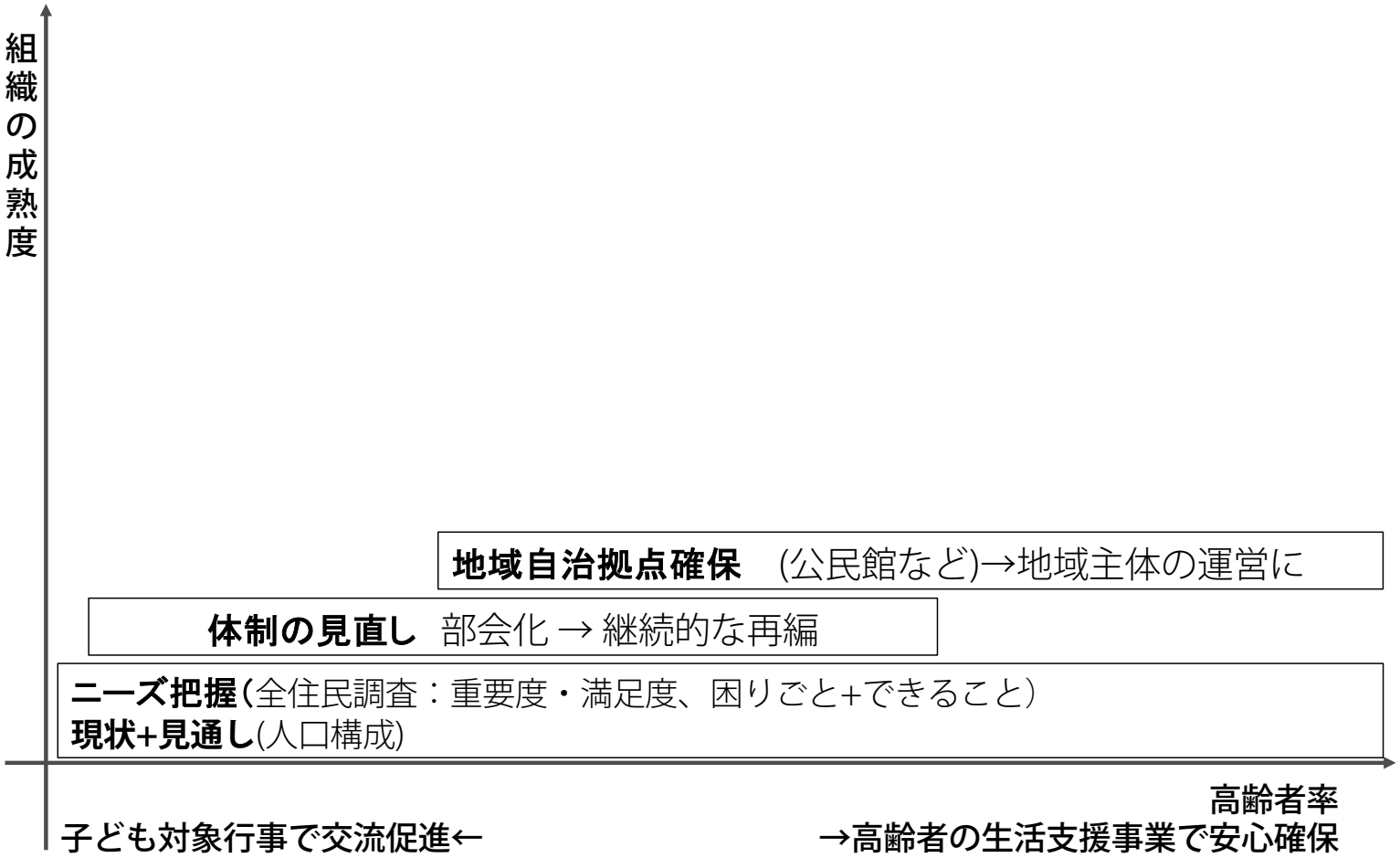
水道検針×健康づくり

月1回、家々を訪ねる水道検針員が端末機から出力された紙を持って玄関に回り、「まめなかねえ（お元気ですか）」と家人に声を掛ける。同地区の住民たちによる地域自主組織「躍動と安らぎの里づくり鍋山」（略称「躍動鍋山」）が2012年4月から行っている「まめなか君の水道検針事業」だ。

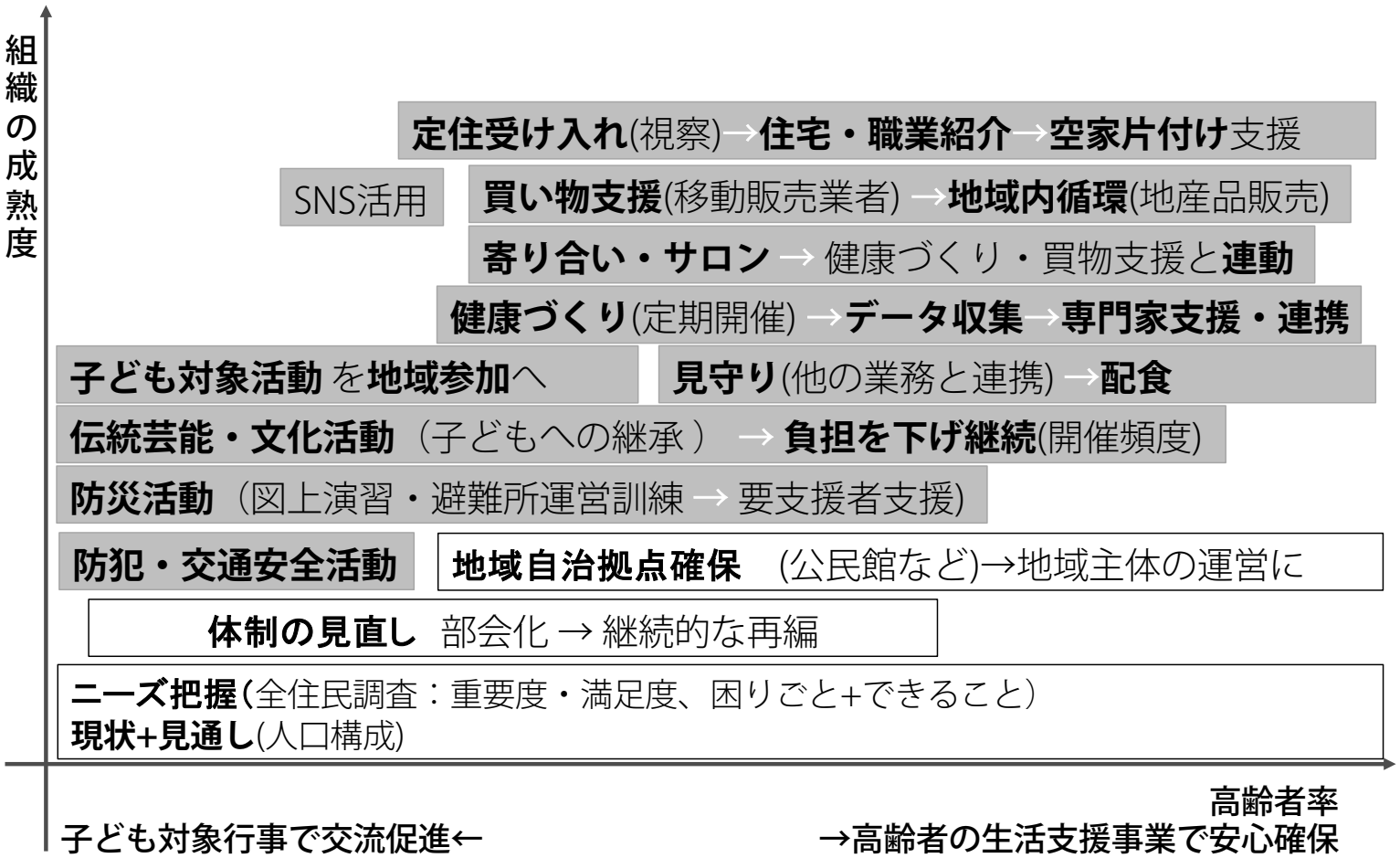
事業は市から受託した検針業務だけでなく、災害発生時に支援を必要とする高齢者への、日ごろの見守りを兼ねているところがミソ。むしろ後者が主たる目的だ。

14年度時点で、地区には420戸、約1500人が暮らしており、4割弱の約540人が65歳以上。そのうち約30人が要支援者として登録されている。要支援者のなかには、水道を引かず井戸水や谷川からの水だけで生活している人もいる。躍動鍋山が職員として雇っている検針員は、そんな水道メーターのない家も訪問し、声を掛けていく。

組織の変化イメージ



組織の変化イメージ



組織の変化イメージ

事業受託(郵便等配達、水道検針)→**行政事務代行**

公共サービス受託(指定管理、草刈り、ごみ収集)

エネルギー自給率向上(太陽光→木質など)

定住受け入れ(視察)→**住宅・職業紹介**→**空家片付け**支援

SNS活用

買い物支援(移動販売業者)→**地域内循環**(地産品販売)

寄り合い・サロン→健康づくり・買物支援と**連動**

健康づくり(定期開催)→**データ収集**→**専門家支援・連携**

子ども対象活動を**地域参加**へ

見守り(他の業務と連携)→**配食**

伝統芸能・文化活動（子どもへの継承）→**負担を下げ継続**(開催頻度)

防災活動（図上演習・避難所運営訓練→要支援者支援)

防犯・交通安全活動

地域自治拠点確保　(公民館など)→地域主体の運営に

体制の見直し　部会化→継続的な再編

ニーズ把握(全住民調査：重要度・満足度、困りごと+できること)
現状+見通し(人口構成)

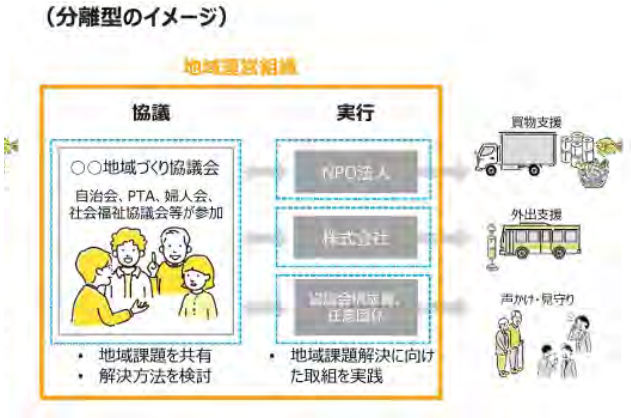
組織の成熟度

高齢者率
→高齢者の生活支援事業で安心確保

子ども対象行事で交流促進←

CASE３
地域の声の見える化×コミュニティビジネス開発事例

全住民アンケートの次の一手の活用と、住民主体の巻き込み事例



本棚を作るところからスタート

何もなかった本棚

↓

住人さんからの寄贈
（5ヶ月）200冊集まる

↓

（現在）500冊ぐらい
まだまだ増え続けています！

としょかんの日常　ある日の1日

- 10時　開館

  手仕事：
  子育てママ・団地住人さんで裁縫が得意な方

- 12時　休憩

- 13時　再開

  ちゃやカフェ：近所のお姉様方（団地住人）
  手淹れコーヒーを片手によもやま話

- 15時　下校時間
  小学生たちが「ただいまー」と寄って家に帰る

  子ども時間：
  宿題・本を読む・ゲーム等

- 17時　閉館　閉館前にみんなで掃き掃除

空きストック活用型居場所

▶住民の得意を持ち寄るコミュニティ

0円マーケット「まだ使えるのに捨てるのはもったいない」

目的
旧住民と新住民や、世代が違う
人同士が出会う場をつくる

収納に限界 ＋ 人生を重ねると価値も変化 ＝ シェア

地域メディアを住民さんの得意で作成→みんなでポスティング

「茶山台だいがく」はじめました。

団地に住んでいる人 ×

● U２さんのお餅つきを楽しみました

12 月 11 日はＵ２クラブさんのお餅つきでした。24 棟で恒例の行事です。

ご近所せんせいになりませんか？

茶山台としょかんでは
なんでもアリのゆるさで
ご近所せんせいになってくださる人
探しています。
たとえばヨガ、裁縫、料理、楽器な
土曜日の午前中の１時間ほど、
みなさんの得意なことを活かしませ
連絡先　080-6124-4500　（ひが

● 0円マーケット「ありがとう」カードで

今回から、品物を
前に、出品者さん
りがとう」カード
感も心の交流も。

次回は、１

ボランティア
しませんか？

①水曜午前中
いずれかで入

1月のカレンダー

マークの説明

月 火 水 木 金 土 日

茶山台としょかん

＼明けましておめでとうございます！／

1月

2018 年もよろしく
お願いいたします！

おねがい
● 急な都合やとしょ係の体調により、開館できない場合があります。ご容赦ください。
● 本のご寄付を受け付けています！絵本、マンガ、小説など、１冊からお寄せください。

問合わせ
電話番号：０７２−３５５−３２２５
メール　：info@npo-sein.org
facebook：「茶山台としょかん」で検索 or QR コード

「茶山台としょかん」は、茶山台２丁１番団地の 19 棟集会所内にあります。

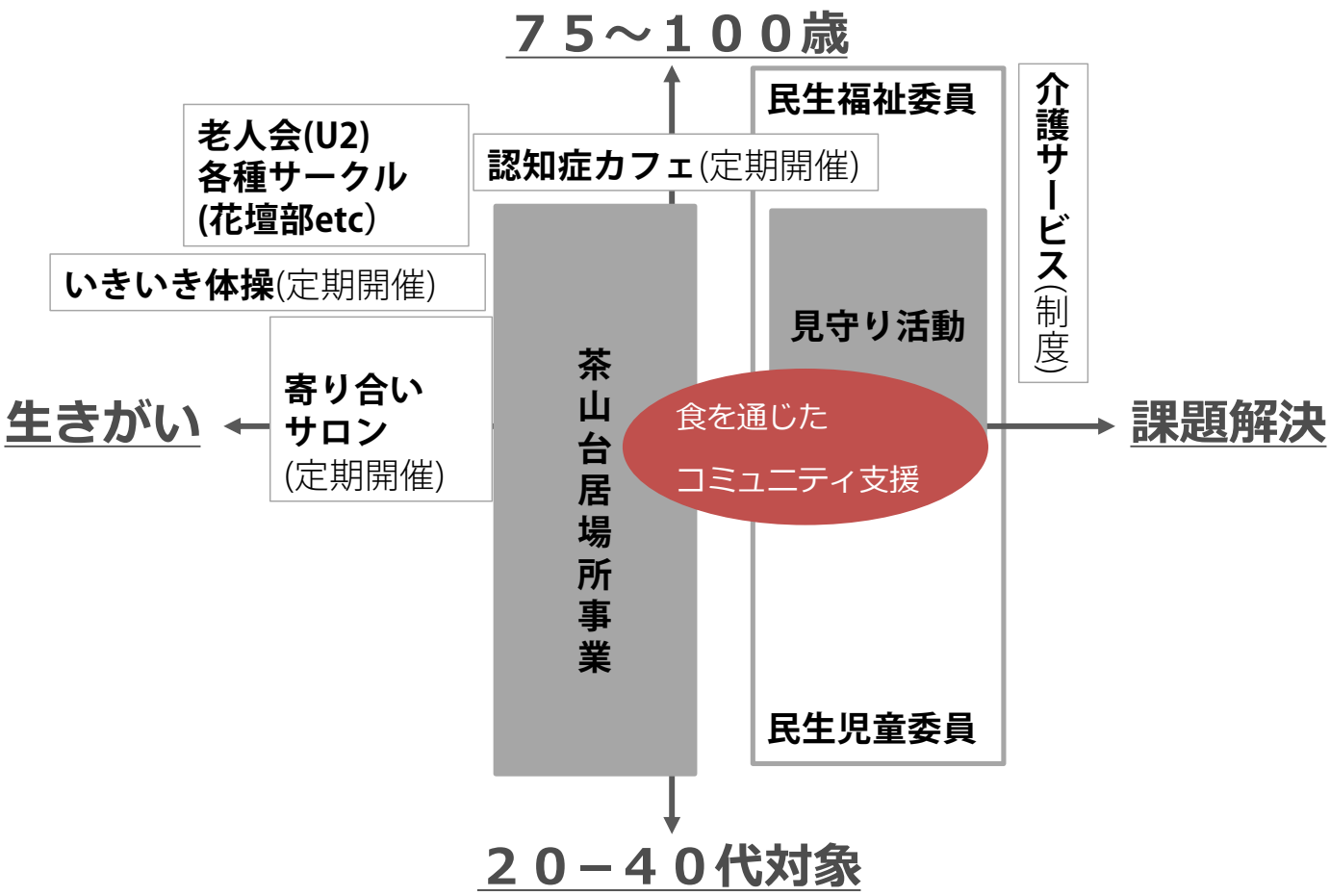
オトナカイギ→持ち寄り晩ごはん会

ワイワイご飯を食べながらお話しし、
・アンケート記入について
・住人Mapについて
・こども会について
課題や視点を共有

話し合えば、いろいろなアイデア、視点が出てきます。
よりよい、住人さんにとって住みよい街になるよう、
コミュニケーションってやっぱり大切。

いつもの晩御飯 ＋ 一緒にたべる＝ ごちそう

高齢者・子育て世代を取り巻く生活環境を支える事業



―世帯主の方またはそれに代わる代表者がご回答ください―

茶山台団地「暮らしに」関するアンケート

【ご家族様について】

入居の皆様の家族等について

ご入居の皆様の世帯主からみた家族等についてお伺いします。

問 1. 世帯主さまの年齢をお答えください。
（あてはまるものに○をしてください）
1. 20～30 代
2. 40 代
3. 50 代
4. 60 代
5. 70 代以上

問 2. 世帯主さまの性別をお答えください。
1. 男
2. 女

問 3. ご家族の人数をご記入ください。
□ 名

問 4. 家族構成についてお伺いします。
問 4-1. 現在同居されているご家族の構成をお答えください。
（あてはまるものに○をしてください）
1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. 二世帯同居
（住宅の名義人と子の同居）
4. 二世帯同居
（住宅の名義人と子親世帯の同居）
5. 三世帯同居
6. その他 具体的に（ ）

問 4-2. お子様がおられる場合 □に人数をご記入ください
1. 3 歳未満 □ 人
2. 3～6 歳 □ 人
3. 7 歳～12 歳 □ 人
4. 13 歳～15 歳 □ 人
5. 16 歳～22 歳 □ 人
6. 22 歳から 39 歳 □ 人
7. 40 歳以上 □ 人

問 5.
介護が必要な方がいらっしゃる場合は人数をお書きください。 □ 人

お住まいについて
以前のお住まいと現在のお住まいについてお伺いします。
あてはまるものに○をしてください。

問 6. 茶山台団地にはどれくらいお住まいですか
1. 1 年未満
2. 1～10 年
3. 10～20 年
4. 20～30 年
5. 30 年以上

問 7. 茶山台団地にご入居前はどちらにお住まいでしたか
1. 公社の茶山台
2. 泉北ニュータウン（公社団地以外）
3. 堺市内
4. 大阪府内
5. 近畿圏内
6. 5 以外の地域（ ）
7. 国外

問 8. 茶山台団地に入居した理由を以下からお選びください
1. 結婚した
2. 家族が増えた
3. 以前の住まいが手狭になった
4. 転勤になった
5. その他

問 9. 現在お住いの住戸の階数をお答えください。
1. 1 階
2. 2 階
3. 3 階
4. 4 階
5. 5 階

評価項目 ＼ 地域の取組み内容	重要度 重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	満足度 満足である	やや満足である	どちらともいえない	あまり満足でない	満足でない
●地域における子育てや教育の関わりについて										
15. 登校時の見守りなど子どもの安全を支える活動										
16. 子どもの居場所づくり										
17. 子ども会など子ども対象の行事										
18. 子育て中の保護者同士の関わり										
19. 病後時保育や学童など働き方の支援										
20. 習い事や学習塾など学校以外の子どもの教育の場										
21. 子育て相談が出来る人や相談の場										
●魅力の発信について										
22. 散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動										
23. 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動										
24. 住民との交流など、新しい住民の受け入れ活動										
25. 婚活イベント、紹介など、結婚対策										
26. 広報紙や回覧板など、地区内での情報共有										
27. 電子メールなど、IT を活用した住民向けの広報・連絡										
28. 外部（団地外）への魅力発信・広報										

購買行動ついて

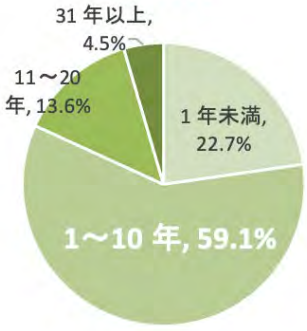
問. 18 日常的に利用する場所についてお伺いします。

問. 18-1　普段、食料品はどこで購入することが多いですか。（あてまるもの全てに○をしてください）

1. 高島屋・バンジョ	2. コノミヤ	3. ジョイパーク	4. 近隣センター内
5. 移動野菜販売	6. ネットスーパー	7. 生協などの個配	8. コンビニ
9. 食材・おかずの宅配サービス		10. その他（具体的に	

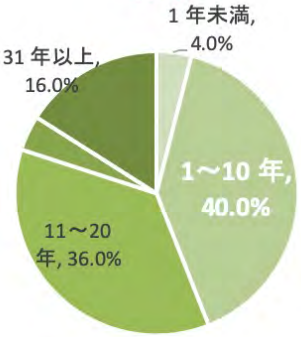
団地で起きている、いびつなコミュニティ形成状況

20～30代



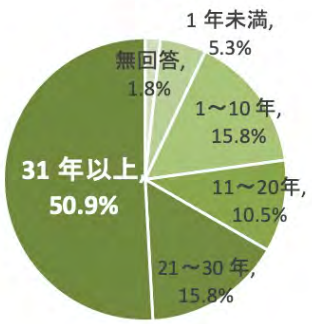
1～10年

40代



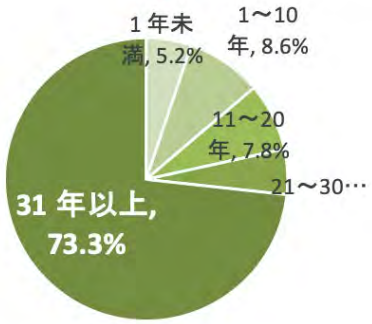
1～10年 Or 11～20年

50・60代



31年以上

70代～



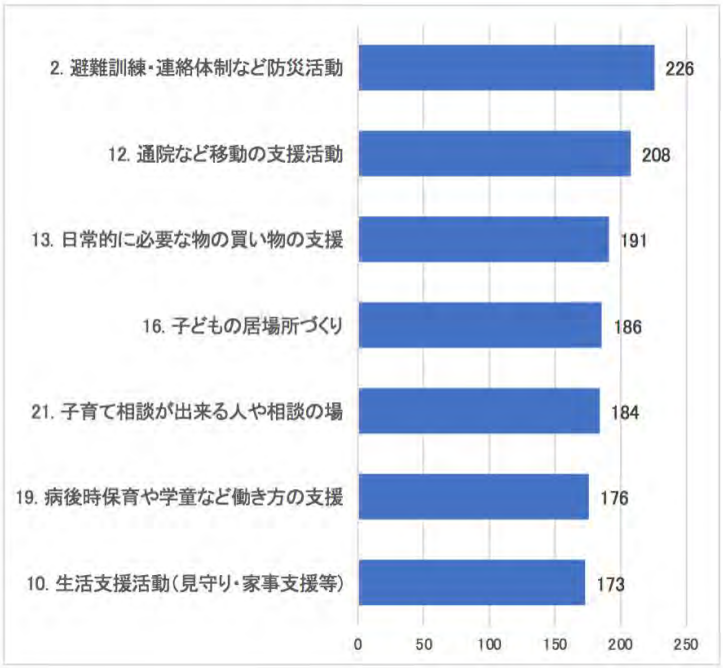
31年以上

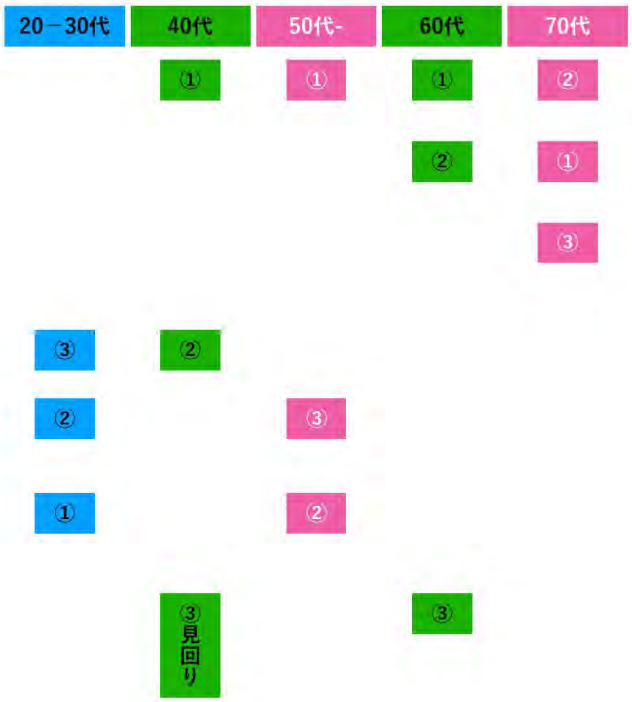
「暮らし」に関するアンケート調査結果2018年より(n=249)

▶長く暮らす住民と短期間の居住の住民で断絶が起きている

Q地域内外で実施されている地域住民が自ら行う活動・事業に対するあなたにとっての重要度（これからは これが大切だ）と満足度（今の取り組みに満足しているか）を、それぞれ５段階で評価してください

地域活動への満足度や安心感の表れとして（重要と回答した数が多く・満足と回答した数が多い）のは「広報紙や回覧板など地域内での情報共有」「子育て中の保護者同士の関わり」「地域での近所付き合い」「見回りなどの防犯・交通安全の活動」でした。一方下記の図は全世代の回答について、将来に向けて大切だと感じている回答（満足度の回答数から重要度の回答数との差が大きく出た回答の差）





暮らしの中で重要度が高いのに満足度が低い困りごとを探ると・・

▶介護サービスで満たされない生活支援と子育て世帯が生活支援の声が多いことがわかった

40・50代

①防災活動
②相談の場
③子どもの居場所
③地域の見守り

20-30代

①病児保育働き方支援
②子育て相談
③子どもの居場所

60代～

①移動支援
②防災活動
③買い物支援

「生活する上での困っていること」「暮らし」に関するアンケート調査結果2018年より(n=249)

▶世代とライフサイクルごとにニーズが対立する

オズマピーアール、「PR アワードグランプリ 2019」でグランプリ受賞

衰退していた団地の未来を「住民との共創」で変えていく

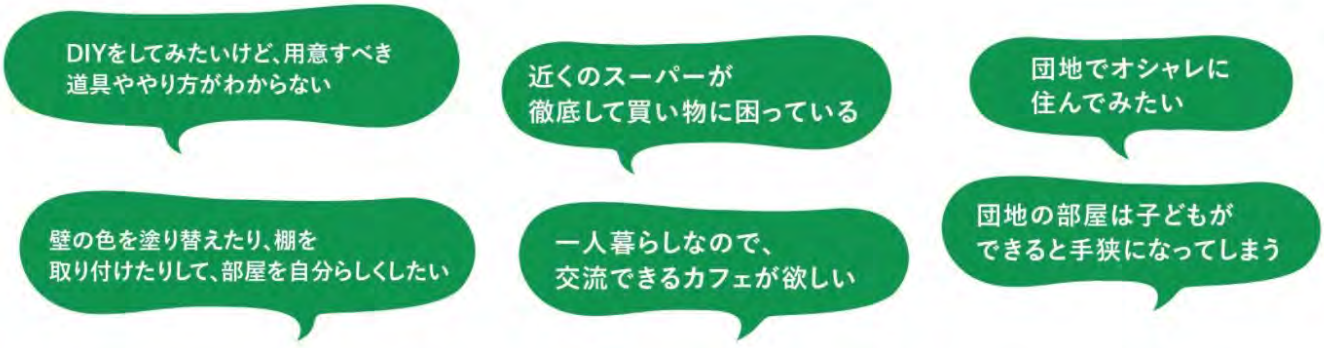
大阪府住宅供給公社との共同エントリー「茶山台団地」再生プロジェクトが選出

株式会社オズマピーアール（本社；千代田区紀尾井町、代表取締役：八田 祥孝）は、2017年度から広報支援業務を行っている大阪府住宅供給公社（本社：大阪市中央区）が泉北ニュータウン内「茶山台団地」（堺市南区）で展開している「『住民との共創』で、衰退していた団地の未来を変えていく「茶山台団地」再生プロジェクト」で、「PR アワードグランプリ 2019」（主催：公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会）の最高賞であるグランプリを受賞しましたのでお知らせいたします。

ーアプローチその2「独自の団地再生の方程式」

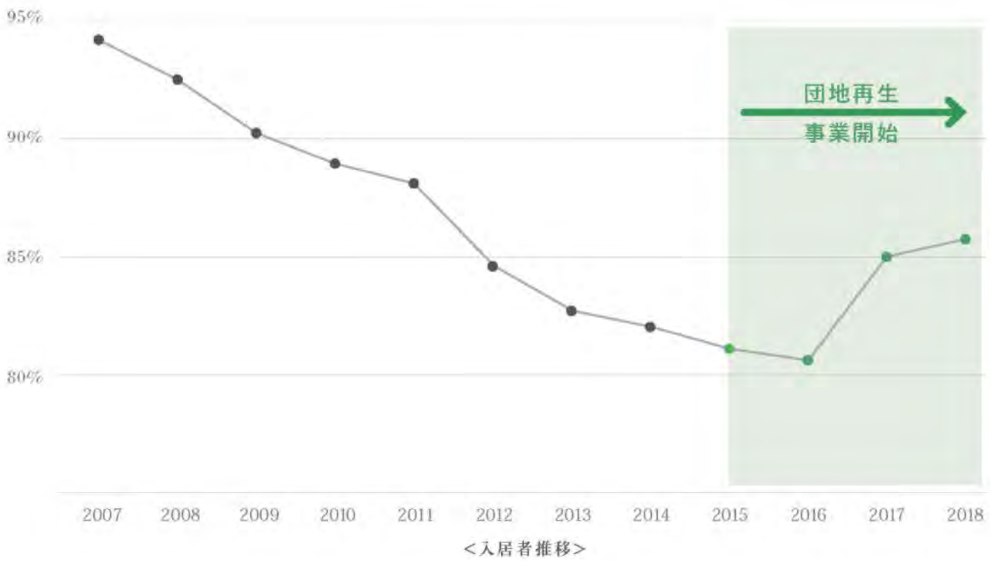
「茶山台としょかん」や「団地ウェディング」が共用部分やオープンスペースなど、住戸の「外」を活用した団地再生の取り組みであるとしたなら、もう一つの方法として、住戸の「中」を使った独自の取り組みにも、大阪府住宅供給公社は着手しました。

そのベースとなったのは「茶山台としょかん」の活動を通じて住民から寄せられた様々な声でした。



<20～40代新規入居者数>

●入居率が上昇･･･下落の一途であった入居率が上昇に転じて85%を超え、団地に活気が戻ってきました。



<入居者推移>

「日本一、多様な幸せを実現できる団地にしたい！」
↓
3年後のゴール：ソーシャル団地を生み出す。
ソーシャルビジネス・課題解決事業が入居し、
団地で起こる様々な課題に
“みんなのアイデア”で解決していく場所を作る。

柱１	柱２	柱３
団地専属コミュニティワーカー配置	担い手育成（地域の自治力を高める・後期高齢者の見守り等）	ソーシャル団地整備事業

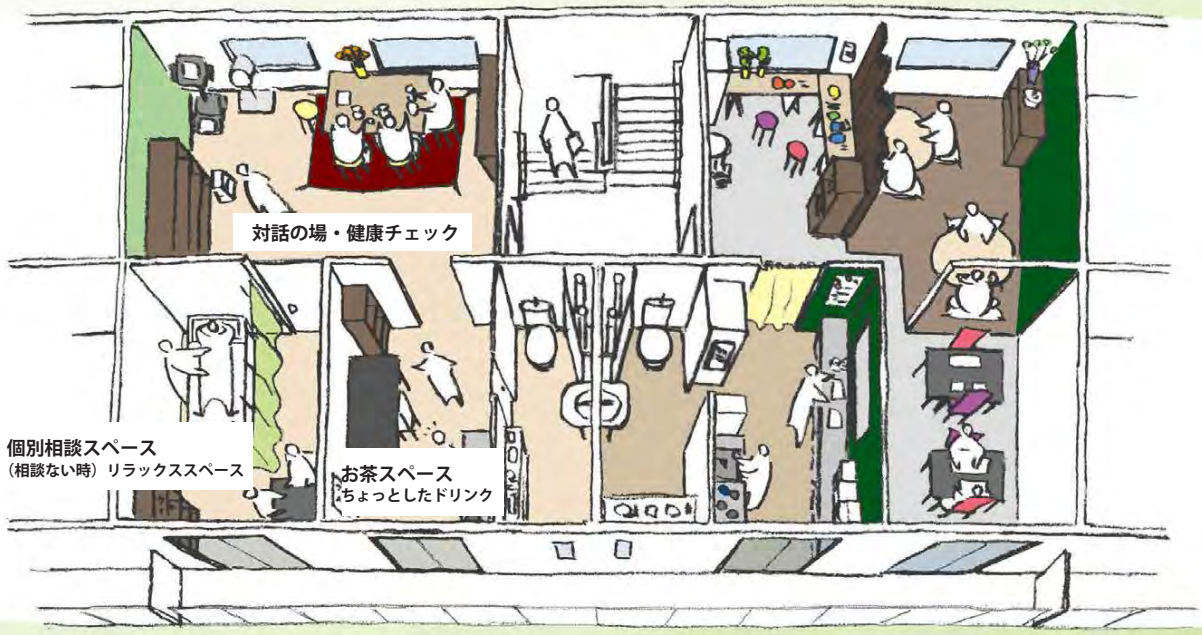
「NPO法人団地ライフラボ@茶山台」
↓
メンバー

代表理事	Iさん	公社茶山台団地2丁1番・2番子ども会会長 若松台中学校PTA会長 社会福祉法人　障がい者支援施設　施設長
理事	Nさん	社会福祉士・ケアマネ資格保有者 （現在は子育て中）
理事	Jさん	設計事務所　職員 建築士の卵
理事	Mさん	整理整頓プロ（SNS・フォロワー1万） （UR在住・現在は幼稚園に勤務）
監事	Yさん	社会福祉法人　高齢者施設 施設長
メンバー	Nさん	看護師 （コミュニティナースに興味あり）

＊実現までのスケジュール

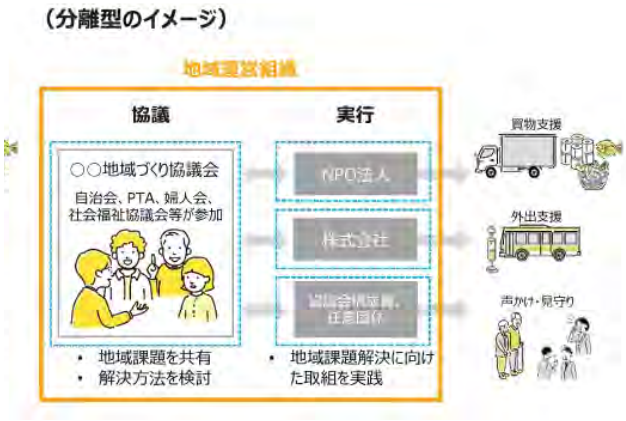
1年目 （第1ステップ） やってみる ↓ 課題の洗い出し	●新しい組織の立ち上げ「NPO法人団地ライフラボ＠茶山台」 ●やまわけキッチン隣の空室の有効活用。 ■まちかど保健室の設置 →団地に住む後期高齢者実態調査 →高齢者見守りチーム結成（ICTの活用） 団地専属のコミュニティワーカー配置 ■「住む」「暮らす」「食べる」について、支え合う場を作る。 ●茶山台としょかんに集う子どもたちから見える、必要な居場所について検討。 ●自治会の担いきれない部分のサポート
2年目 （第2ステップ） 課題の整理 ↓ 提案	●ソーシャル団地の課題の整理→提案 必要なパートナーについての検討 ●「緩やかなつながり」を作るための場の検討。 具体的な取り組みの実施。住民さんに部屋から出てきてもらう仕組み。
3年目 （第3ステップ） 実施	●ソーシャル団地の整備とオープン

１年目：空室を活用した「まちの保健室」設置イメージ図



新設「まちの保健室」　　やまわけキッチン

CASE４
地域の担い手を地域の小さな拠点から巻き込み地域に必要な事業を生み出す



河内長野市南花台

高齢化率約30.3%、開発から３５年でも高齢化が加速、この５年で後期高齢化が加速している。

丘の拠点『咲っく南花台「生活支援プロジェクト』@大阪府河内長野市

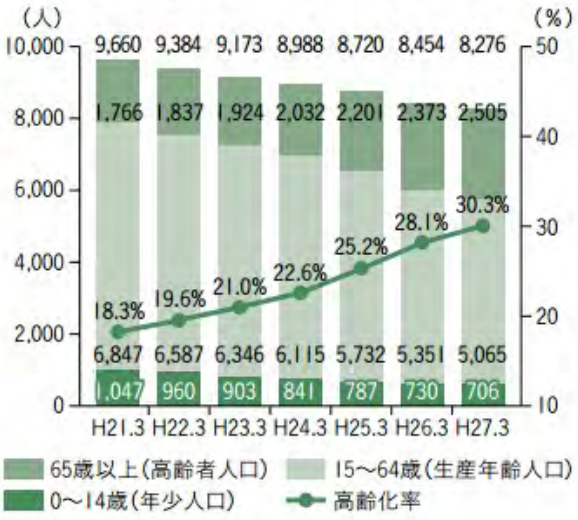
高齢化率約31.8%、開発から34年でも団塊の世代がやっとまちに。

将来の不安を見える化し、健康寿命延伸をキーワードに

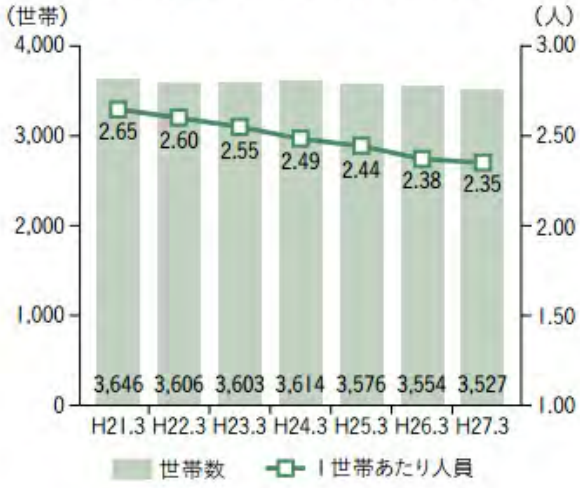
- ●住宅開発から３４年
- ●人口　　７，９００人
- ●世帯数　　３１００世帯
- ●高齢化率　　３６.６%

[平成３０年現在]

【年齢３区分別人口と高齢化率の推移】



【世帯数と１世帯あたり人員の推移】



■南花台小学校区の特徴

地域づくりに活かしていきたいところ	改善していきたいところ
○公園や緑地が多く、まち並みがきれい ○見守り隊等のボランティア活動が活発である ○防犯・防災に対する意識が高い ○様々な経験を持った人材が豊富である	○住民同士の交流の場の充実が必要 ○住民の力を引き出す場の充実が必要 ○空き家や空き室の増加への対応が求められている ○子育て世帯に適した環境の向上が必要 ○地域情報の発信力の向上が必要

第5次総合計画　地域別計画南花台小学校区より

河内長野市南花台

開発から３５年でも高齢化率約30.3%、住民同士が力を合わせ、地域課題の解決や、安全・安心への取り組み、地域住民の絆づくりが進む。

■まち開き　昭和57年
■面積　約98ha
■人口　約8,200人
■世帯数　約3,500世帯

【特徴】
■人口が急激に減少
ピーク時　11,000人
H38推計　6,026人
H43推計　5,106人

■最も多い年齢層が昨年度６５歳を超え、急激に高齢化が進行
H25.3　25.2%
H27.3　30.3%
H38推計　49.6%
H43推計　54.4%

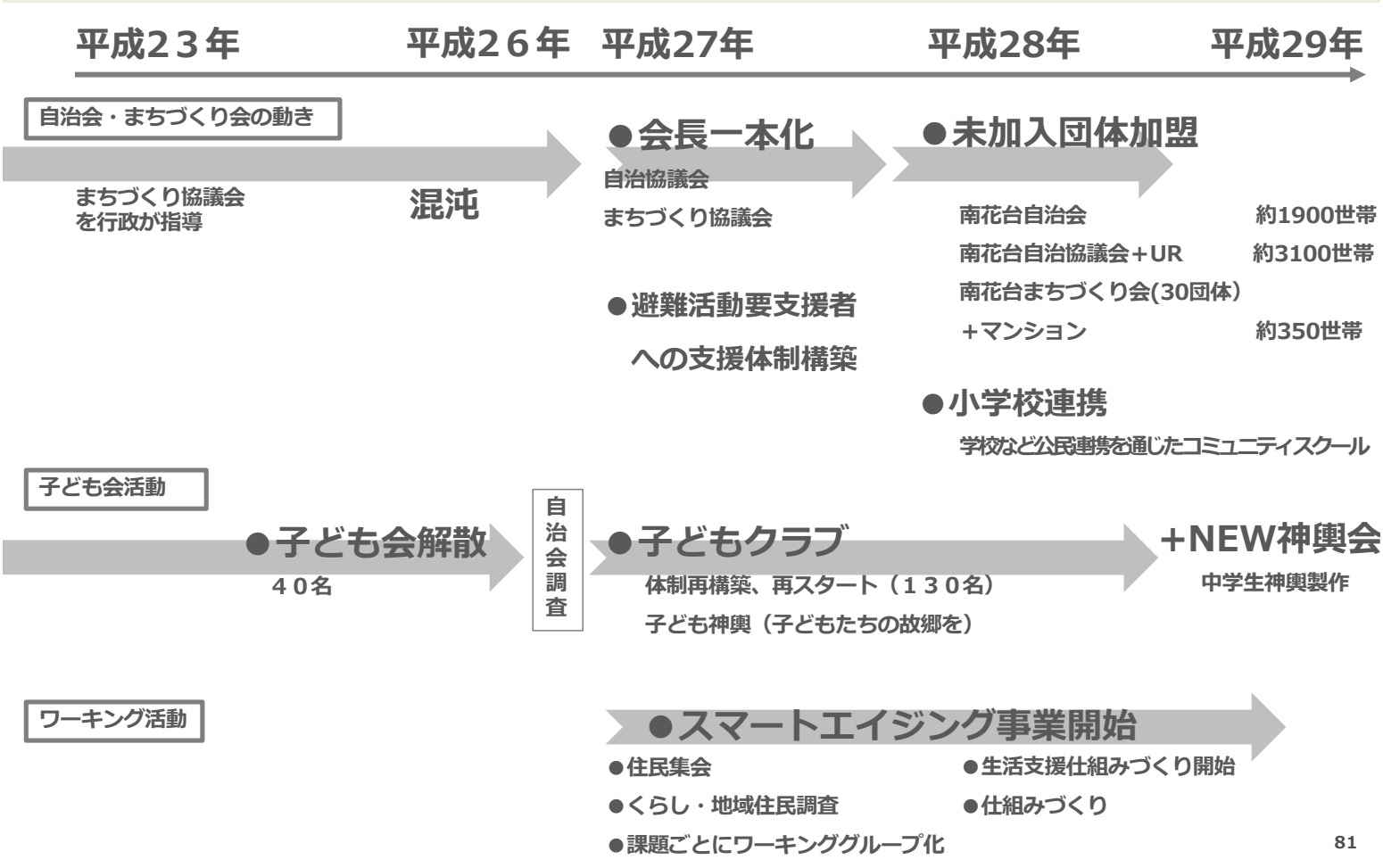
■特にUR団地の人口減少・少子高齢化が急激に進行
⇒小学校２校を1校に統合（H24）

■バス路線充実している。

■保育園、幼稚園、小学校、中学校がそろっている。

■医療施設、商業店舗等が有り、一定の生活利便施設はそろっている。

南花台での行事と組織の「棚卸し」ダイジェスト



「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業概要

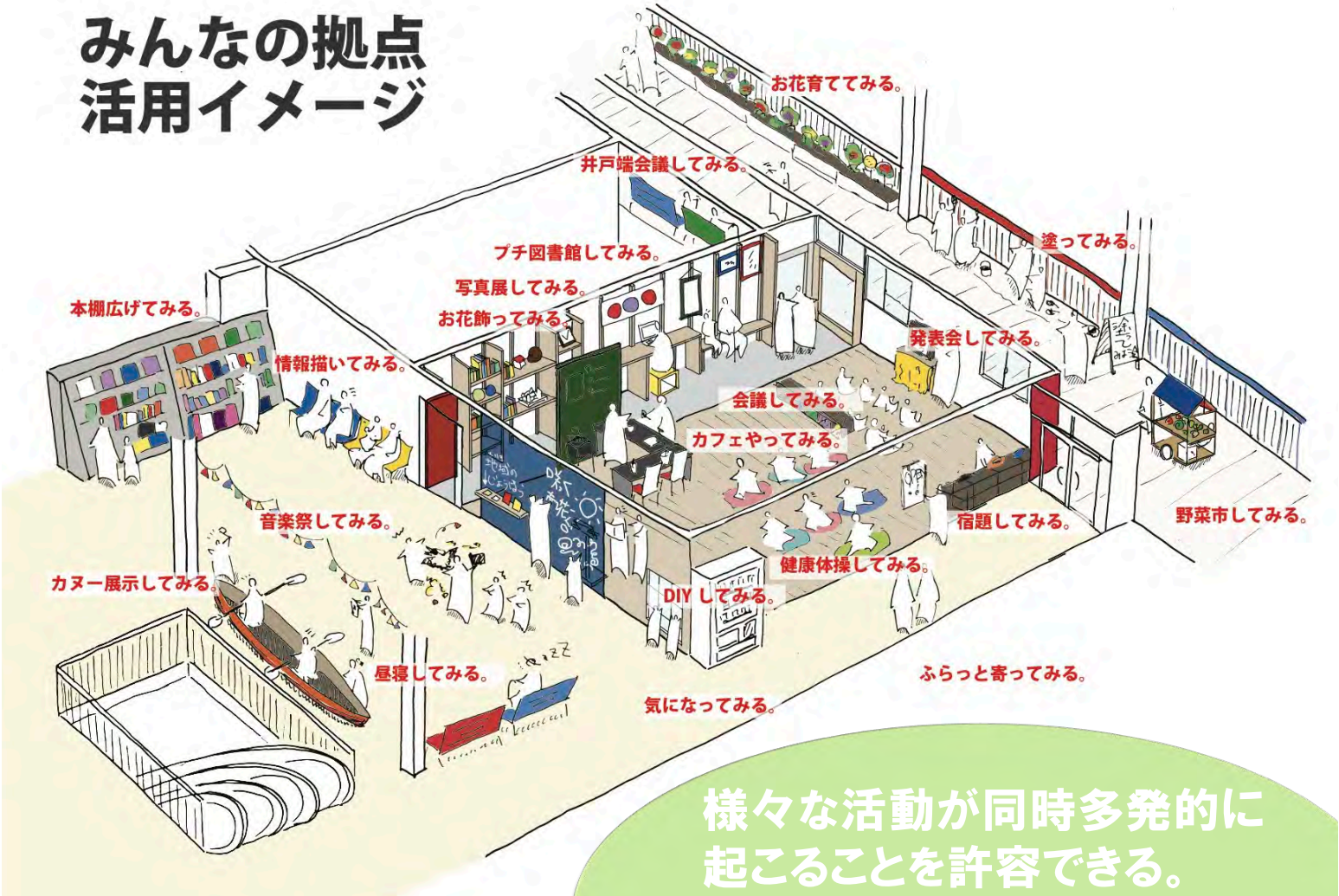
③ 公・民・学の連携による住民主体の事業体制

公・民・学の連携体制で、多様なノウハウを活用しながら事業を推進します。

④ 「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」を柱にした事業展開

「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」を事業検討の柱に据えています。まちの課題解決につながる仕組みを構築しながら、「まちの活力の向上」「生活利便サービスの向上」「子育て世代の転入促進」を含め、総合的にまちづくりを展開します。

みんなの拠点 活用イメージ



様々な活動が同時多発的に起こることを許容できる。

組織・行事の棚卸しを通じた南花台の実際

①南花台自治協議会とまちづくり会の会長一本化
・各種団体のリーダーの集合体のまちづくり会

②子ども会からこどもクラブへ
・子どもを支える仕組みを当事者だけから自治会が全面バックアップへ

③子ども神輿を通じたふるさと南花台へ
・神輿会の設置

④棚卸し後の組織の組織・部会の継続
・まちづくり会への加入する団体を網羅する

⑤現在の南花台の課題

買物応援からはじめる

【計画】	**進め方を検討する**
2016年９月２４日（土）１３時～１５時　@コノミヤテラス	
【計画】	**買物応援の課題と体制を議論**
2016年１０月２０日（月）１３時～１５時　@コノミヤテラス	
【広報】	**役割分担とマニュアルについて議論**
2016年１１月４日（土）１０時～１２時　@コノミヤテラス	
【体制構築】	**スタッフ向け説明会　＋　SAI LAB会議**
2016年１１月２８日（土）１３時３０分～１５時半　@コノミヤテラス	

１２月２日～１５日
買物応援社会実験開始

月に一度の定例会議での改善検討

【検証】	**社会実験を振り返る**
	2016年12月15日（月）
【検討】	**改善を検討**
	2017年 2月27日（月）
【検討】	**改善を検討**
	2017年 3月25日（月）
【検討】	**改善とPRを検討**
	2017年 5月15日（月）
【検討】	**改善とPRを検討**
	2017年 7月24日（月）
【検討】	**改善とPRを検討**
	2017年 8月24日（月）
【検討】	**改善とPRを検討**
	2017年 9月21日（月）
【検討】	**改善とPRを検討**
	2017年10月23日（月）
【検討】	**改善とPRを検討／１周年に向けて**
	2017年 11月13日（月）
【視察】	**寝屋川あいの会事前視察**
	2017年 12月12日（水）
【検討】	**1周年に向けて**
	2017年 12月18日（月）

【合意】	**１周年円卓会議**
	2018年 1月21日（土）
【検討】	**今後の方針をふりかえる**
	2018年 1月29日（月）
【検討】	**生活支援内容の再検討**
	2018年 2月19日（月）
【検討】	**生活支援内容の再検討**
	2018年 3月12日（月）
【検討】	**生活支援内容を検討**
	2018年 4月16日（月）
【検討】	**生活支援内容要綱作成・実施**
	2018年 5月 7日（月）

１７回の会議を経て
約５０名の利用者さんの声に基づき
生活支援プロジェクトに変化しました

支え合い！南花台！ 咲っく南花台　第２回社会実験

生活応援はじめます

期間　5/21(月)～6/3(日)

ご予約受付中　基本対応時間 10:00～16:00

お問合せはコチラ
080-4982-9349
5月1日から10時～16時

費　用　１時間800円　まずはご相談ください
内　容　右の基本メニュー
※家自宅へ入る必要のある作業は検討中です
受付場所　月・木曜日 コノミヤ１Ｆカート前
上記以外　コノミヤ２Ｆコノミヤテラス

高齢の方、子育て世代など事情があって生活にお困り事がある南花台にお住まいの方を対象に下記支え合い社会実験を行います。
●基本メニュー
①散歩のおつきあい　②犬の散歩
③ゴミ捨て　④庭の水やり
⑤庭の草引き　⑥庭の掃除
※有償ボランティアができることでお手伝いします！

問合せ　地域の課題解決と支え合いのまちづくりの提案を行う
咲っく南花台小さなつながりたくさん WG
買物応援プロジェクト事務局　担当　宝楽・関谷
詳しくはコノミヤテラスもしくは、**080-4982-9349**（5月１日から期間中受付）

支え合い南花台

2018年 9月号

現場からお届けします！

2019年3月まで社会実験継続中！まずはお気軽にご相談を！

平成28年から現在まで生活支援プロジェクトでは、高齢の方、子育て世代など事情があって車や自転車に乗れない方などを対象に、コノミヤで購入した商品を自宅の玄関先までお届けする支え合いを社会実験を実施し、現在では生活のお困りごとへのサポートへ拡大し**75件応援いたしました**。今後支えあい・助け合いの範囲を広げ生活にお困りの毎のある南花台にお住まいの方を対象に支えあい・助け合いの社会実験をします。

基本メニュー

①散歩のおつきあい　②犬の散歩
③ゴミ捨て　④庭の水やり
⑤庭の草引き　⑥庭の掃除　など、

有償ボランティアが得意を活かしお手伝いします。今後、**URでのお引越し前のサポート**など暮らしのサポートを3月まで実施します。ご依頼の前にコーディネーターがご自宅に伺いサポート内容を打合せています。詳しくはコノミヤテラスまでもしくは、お問合せ電話にてお待ちしております！！

01 サポート事例を紹介します！草抜きのご依頼編

ひとり暮らしで一人で難しくなった庭の草抜きなど生活のちょっとしたお困りごとを住民の仲間でサポートしています。長年大切にしてきた草花も確認しながら、草抜きをサポートいたします。

草抜き前

こんなこと頼んでいいの？から相談ください！

草抜き後

お困り事継続中！

咲っく南花台生活支援プロジェクトでは、引き続き南花台のみなさんの生活でのお困り事を募集しています。お気軽にご相談ください！

ご相談窓口開設中

080-4982-9349

サポーター募集中

草抜きが得意、日常の大工が得意などあなたの得意を地域で活かしてみませんか？有償ボランティアを募集しています！

どこで相談できるの？

南花台コノミヤ2階「コノミヤテラス」にて随時相談受付中です。ご以来の前に、コーディネーターが訪問し作業時間などご相談に応じます。

生活応援プロジェクト事務局　**080-4982-9349**　10時～16時

毎月の困りごとをプロジェクトチームでケース会議を毎月開催

9月生活応援プロジェクト実績　【9月末現在依頼問い合わせベース】

件数	受付日	完了日	内容	場所	作業時間	担当	生活応援に至った経緯・内容
428	9月2日	9月4日	荷物の移動	丁目	0:30		リピーター サイドボードを隣の部屋に移動
427	8月29日	9月19日	庭の草抜き	丁目	0:30		芝生刈り　Hさん指名
426	8月28日	9月1日	粗大ごみ捨て	丁目	0:30		新規
425	8月23日	9月9日	庭の草抜き	丁目	2:30		リピーター
424	8月22日	9月28日	庭の草抜き	丁目	3:00		リピーター
423	8月23日	9月25日	庭の草抜き	丁目	0:30		リピーター
422	8月23日	9月2日	粗大ごみ捨て	丁目	0:30		リピーター
420	8月22日	9月2日	荷物の移動及び粗大込み搬出	丁目	0:30		2階から勉強机を1階へ移動
419	8月13日	9月2日	粗大ごみ捨て	丁目	0:30		リピーター
417	8月10日	×	庭の草抜き	丁目			涼しくなってから作業。又連絡する
416	8月10日	9月20日	庭の草抜き	丁目	7:00		新規依頼者。夏号チラシを見て依頼された
415	8月10日	9月2日	粗大ごみ捨て	丁目	3:00		リピーター
407	7月30日	9月2日	粗大ごみ捨て	丁目	1:00		リピーター
406	7月30日	9月1日	荷物の移動	丁目	2:00		新規チラシを見て依頼あり 9/1作業予定。2階から洋服タンス、和ダンスを移動。
404	7月29日	×	畝作り	丁目			冬野菜を作るのであれば、9月上旬に作る必要あり（　トさんより）
402	7月29日	×	粗大ごみ捨て	丁目			No.397で伐採した木の廃棄依頼
401	7月29日	×	粗大ごみ捨て	丁目			新規 チラシを見て依頼ソファー2脚 確認したが購入先が引き取るとの事で依頼取り消しの連絡あり
398	7月25日	9月5日	庭木の伐採	丁目	8:00		桜の木の幹回り90cm樹高約10mは伐採の危険度が高いので断る
397	7月25日	×	庭木の伐採	丁目			新規　F→高橋代表の伝言依頼 棒屋根の木の伐採8/23～8/28作業予定 日程調査や見積以降の作業I　さんに依頼済み
390	7月17日	9月24日	庭の草抜き	丁目	5:00		隣家と接しているヶ所を草抜きとススキは根っこから除草。前回は機械除草

昨年度実績比較　9月末までの累計

	R2年度	R3年度	R4年度
生活応援	45件	107件	220件

拠点運営

コノミヤテラス

て2015年10月に開設された「コノミヤテラス」。スーパー側が空き店舗を無償で貸与してくれたスペースで、南花台のまちづくりの課題を抽出し、解決策を探る拠点。「咲っく（Smart Aging City）南花台プロジェクト」の中心となる場所　です。「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」を柱に、総合的なまちづくりを図り、「健康仲間づくり」「生きがいづくり」「みんなの拠点づくり」「まちの情報発信」「子育て・子育ち環境づくり」「ストック活用」の6つのプロジェクトを同時に進められ、住民主体に進んでいる。

生活応援の進化

生活応援 お互いさん

大阪府と河内長野市が協定を結び、2014（平成26）年に始まった「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業」から生まれた取り組みです。「咲っく南花台生活応援プロジェクト」は、2017（平成29）年に買い物応援からスタートし、2018（平成30）年6月から庭の草引き、留守中の庭の水まき、窓ガラスの調整など、日常生活支援全般のサービス提供を開始しています。生活支援のニーズも聞き取る工夫を取り入れています。地域住民にアンケートを行った結果、7割近い人が地域に対して何かしたい、と思っている担い手を発掘している

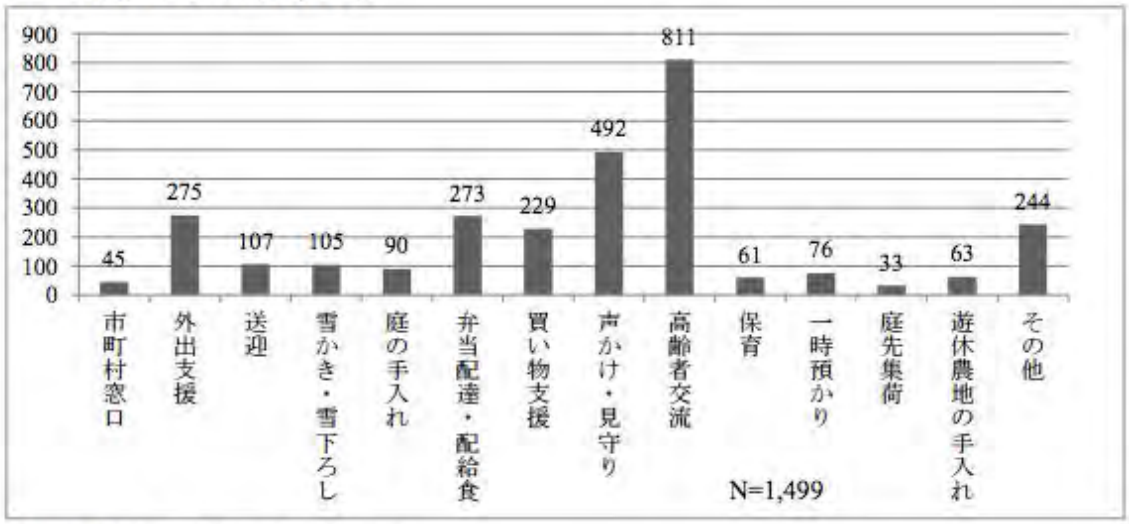
移動支援への参画

南花台モビリティ　クルクル

地域住民が主体となり、AI運行バスシステムを活用した効率的なデマンド運行と、低速電動ゴルフカート7人乗り（19km/h以下）を活用した安全性の高い移動支援を実現。（令和元年12月運行開始）

地域住民のラストワンマイルの移動支援による生活利便性向上と、地域住民が主体となった運行チームへの参画による新たな生きがい創出、カート内での新たなコミュニティも生まれ、南花台のまちづくり全体にも大きな影響を与えています。

■地域運営組織の活動内容



（高齢者交流）54%（811／1,499）

（声かけ・見守り）33%（492／1,499）

資料出所：平成 25 年度総務省・農林水産省共同調査

地域運営組織の活動資金について、総務省・農林水産省共同調査では、「市町村補助金」が最も多く、また、今年度アンケート調査においても、行政からの支援策として「助成金等の活動資金支援」が最も多くなっており、今後、持続的に活動を展開していくためには、収入機会の多様化・安定化が必要な状況にある。

なお、「助成金等の活動資金支援」を実施している団体のうち、「個別の使途を定めていない」との回答は全体の約 3 割程度にとどまっている。

■「暮らしを支える」活動に取り組むための活動資金の確保（上位３位）

	１番目	２番目	３番目
会費	332	257	254
利用料	255	377	196
基金	6	7	13
市町村補助金	637	333	40
国・都道府県補助金	51	75	18
その他収益事業	43	80	56
その他	153	189	249

資料出所：平成 25 年度総務省・農林水産省共同調査

地域運営組織形成ステップ

団地内のコミュニティ衰退に対し、地域・住民は今、何ができていて・何ができていないかを確認するプロセスを実施。これから何に取り組まなければならないか共有するため、対話・プレーヤー分析→アンケート調査→共有→試行のプロセスを構築した。

STEP1

理想・現実共有

地域における危機感や理想の共有のステップから、アンケート項目の仮説をたてた。

◆地域での状況や取組み
□地域飲食店ヒアリング
□オトナカイギ
□30-40代未来会議

STEP 2

現状把握 組織づくり準備

地域が今、どんな課題を抱えているのか現状把握し、どんな組織が理想か準備するため、居場所を核にアンケート調査へ伴走

◆地域での状況や取組み
□ 住民アンケート（１月）
□住民集会等で地域の課題や魅力、資源を把握し住民同士が共有する場を実施（３月）
□プレーヤーができることを社会実験実施予定（３月）

STEP3

実験試行
地域課題解決と理想づくりのための
組織・計画づくり

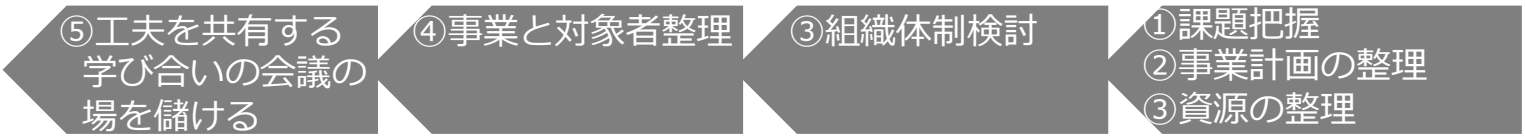
出てきた課題について「誰が」「何を」「いつまでに」「どのように」やるか整理し２０１８年度団地デベロッパーと住民共同

◆地域での状況や取組み
□ 組織の

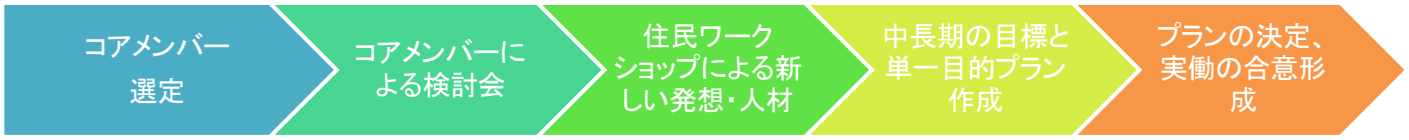
変化するためのおすすめプラン

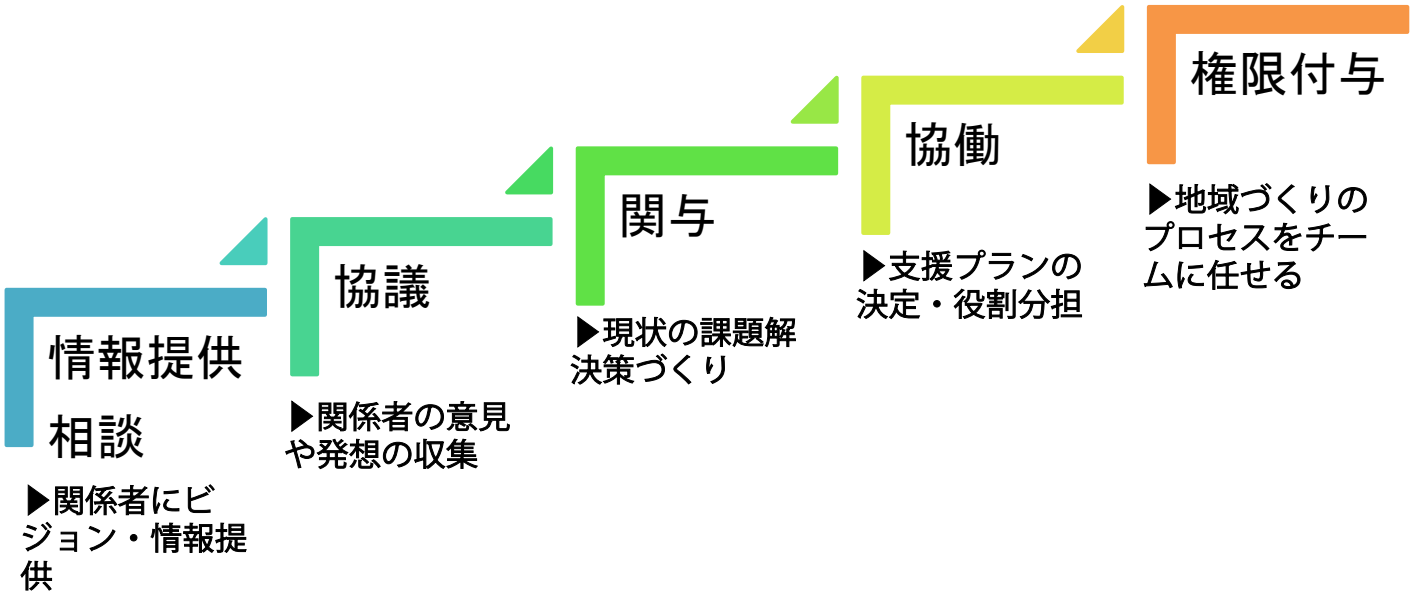
	【1年め】 準備	【2･3 年め】 導入	【4･5 年め】 展開および拡充
知る・学ぶ	地域分析の実施→研修・勉強会（今回） ※課題によって行政を招いた勉強会 ・市区町村内外の事例検討 ・前後20 年の経緯・見通しの取りまとめ ・全住民アンケート	（継続し、経過を追いかける） ・全住民アンケートの分析会	同様の地域特徴を抱える他市と推進する連合体を作る
備える	地域：できる改善から進める 自治拠点の検討	校区分析実施＋アイデア共有研修（行事・会議・部会制など組織の棚卸し） 行政：中長期基本方針策定 →小規模多機能自治推進に向けて	行政事務委託・移管の検討 ふりかえり・改善会議
育てる	アンケートによる担い手調査 →アンケートにて困りごと＋その解決能力を持つ住民を発掘する 「〇〇円卓会議」開催（年3回程度継続） →防災、福祉等テーマ・部会単位（若者のチャレンジ支援施策と連動）	相互視察 →自慢大会で好事例発掘 合同研修 →人口・特性の似た校区で勉強会や研修会を開催 「自慢大会」開催（年2回） →市区町村内 全地域発表	業務や地域に必要な機能別の研修 例）他地域と合同法人格研修 「自慢大会」開催（年2回） →市区町村内 全地域発表

深める順番（逆から積み上げる）



協働のプロセスを大事した参加の階段





これだけは外せない！

（まちのすべて過去20年推移をもとに今後10年を予測することが重要

□１　社会増減率、転入5年未満率
□２　人口密度、6・18歳未満世帯率
□３　高齢化率（+後期高齢者）世帯数・率
□４　後期高齢者独居世帯数・率
□５　耕作放棄面積、空家数・率

そのために必要な進化の仕組み②

２，行事や事業への評価を測る
困りごと・不安／手伝えることを確認

変化に備える仕組みや取り組みを生み出すために

・住民の理解を得ながら進行する必要がある＝全住民アンケート

・地域の需要の推移や住民の現状にもとづいて意見交換

例）子ども含めた住民の全世代アンケート

＋α　各戸や個人の困りごとを通じ、地域の理想像を測る

⇒小さな声こそ、小さな地域の取り組みで支え合える

Act２　担当地域は、困りごとランキング何が高いと思いますか？(次頁)

	重要度の上位	対応状況	困りごと上位	対応状況
80歳代以上				
60から79歳				
40歳から59歳				
20歳から39歳				
20歳未満				

そのために必要な進化の仕組み③

３，行事と会議を棚卸す

地域は忙しい問題と向き合う。

地域の役員さんとの会話で耳にする「何が一番大変？」への回答

⇒行事が大変

例）行事一つでも、準備の会議→準備→運営→撤収・・・繰り返し

⇒行事の数＝会議の数

例）毎月３時間以上会議を行うとすると・・・１年で４０時間

→１日８時間の勤務だと５日間（平日の１週間）

→会議の数が増えると。。。５個だと年間、１ヶ月分

Act３　担当地域の会議や組織を棚卸してみましょう！

人口減・８５歳以上増の社会に備えるため

時間の使い方を変化する！

●行事の棚卸し

ー行事より事業という考え方

ー福祉と地域内循環をいかに作るか

●会議や機会の棚卸し

ー年間スケジュールの見える化

ー会議の持ち方を考えなおす

●組織の棚卸し

ー会の数＝役職数＝会議の数＝会・団体・地域自主組織の数

５年先、１０年先の役員・住民のための進化のきっかけをつくる

今年度の行事・事業の一覧カレンダーを作ろう

組織名	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	役員年数/女性/出席率
自治会	花見　　盆踊り　収穫祭 運動会 清掃　草刈り→→　　一斉除雪	3年 / 20% / 70%
サロンの会	例会 → → → → → → → → → → → → 健康相談　→　→　→　→	4年 /100%/100%
安全推進協会	通学見守り立哨 → → → → → → → 交通安全月間　→→	3年 / 5% / 75%
自治組織 〇〇部会		

Point！

役員さんは何年継続している？

ー１年交代でも、１０年でも継続しない

特に、会議や組織の数＝イベントの数

ー自分たちの間でやめると、末代までの恥

ー５年経てば、５歳年を重ね、時間の優先順位が変わる

支援者に求められる役割

地域の声の見える化のサポート

ファシリテーター

地域の声に気づく
（住民ヒアリング）

▼

住民・サポーター

声を集める混ぜる
（アンケート）

▼

プロデューサー

声を地域の問いにする
（分析）

課題の共有化のサポート

住民・コディネーター

関係者を見える化する
（行事・会議の棚卸し）

▼

コーディネーター

行動する当事者や
代弁者を見出す
（アンケートを元に対話）

▼

プロデューサー

事業の仕組みを考える

地域内コラボレーションを促すサポート

コーディネーター

地域内の活動を合体したり、
変わりの方法を考える

▼

プロデューサー

複数の活動を
仕組み化する

▼

プロデューサー・サポーター

仕組みを成長させるため
組織として部会を設立する
（組織の棚卸し）

ワークショップ
校区特性をつかみ
次の一手を見つけよう！

少子化率×高齢化率から捉える
私たちの地域特性

未来を予測するグラフを作ろう

＜目的＞

1　字別散布図作成を通じまちを俯瞰します

2　まちの地域特性を統計から理解します

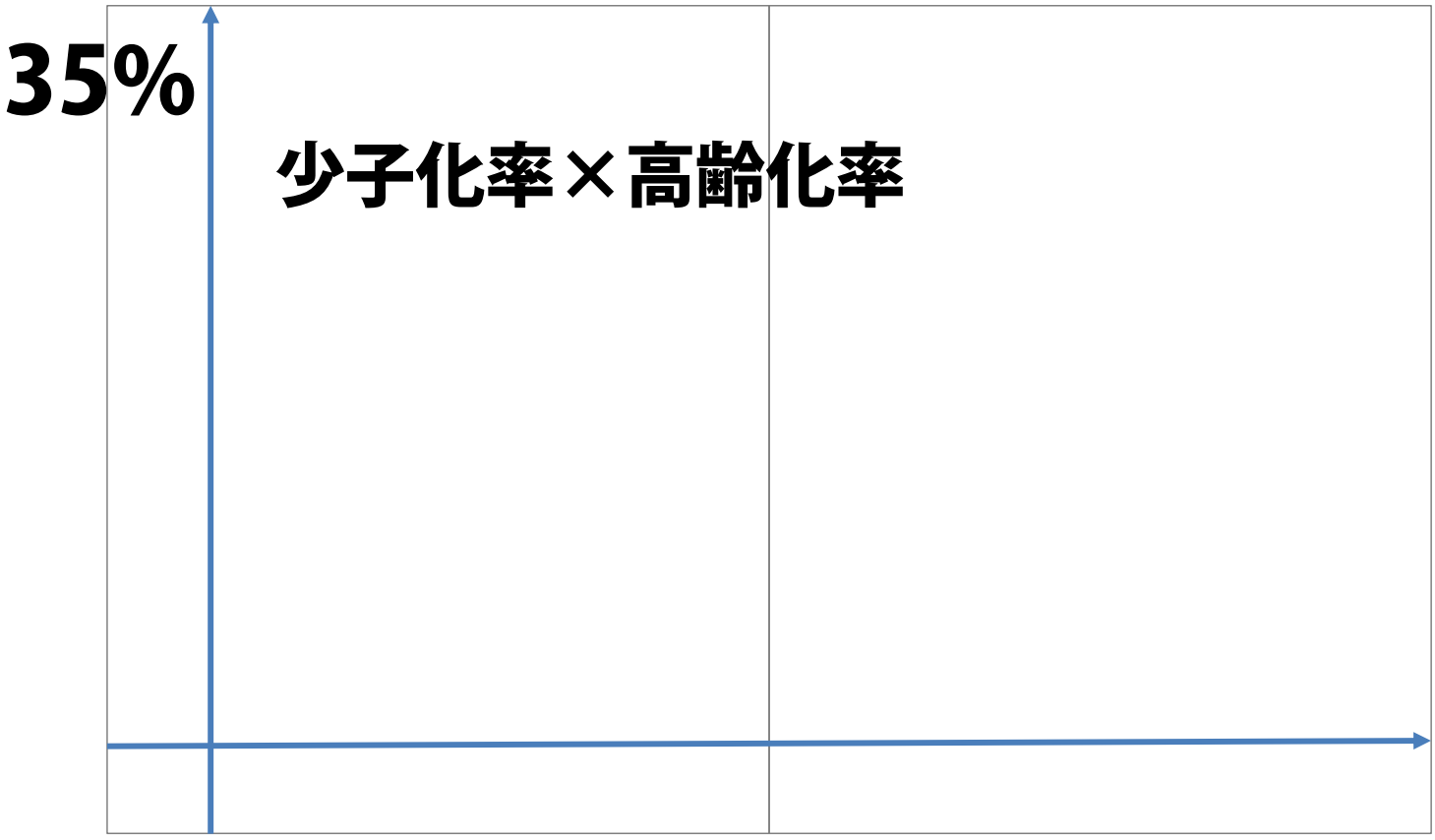
3　高齢化率だけでなく、後期高齢者割合など、多角的に考えます

＜進め方＞

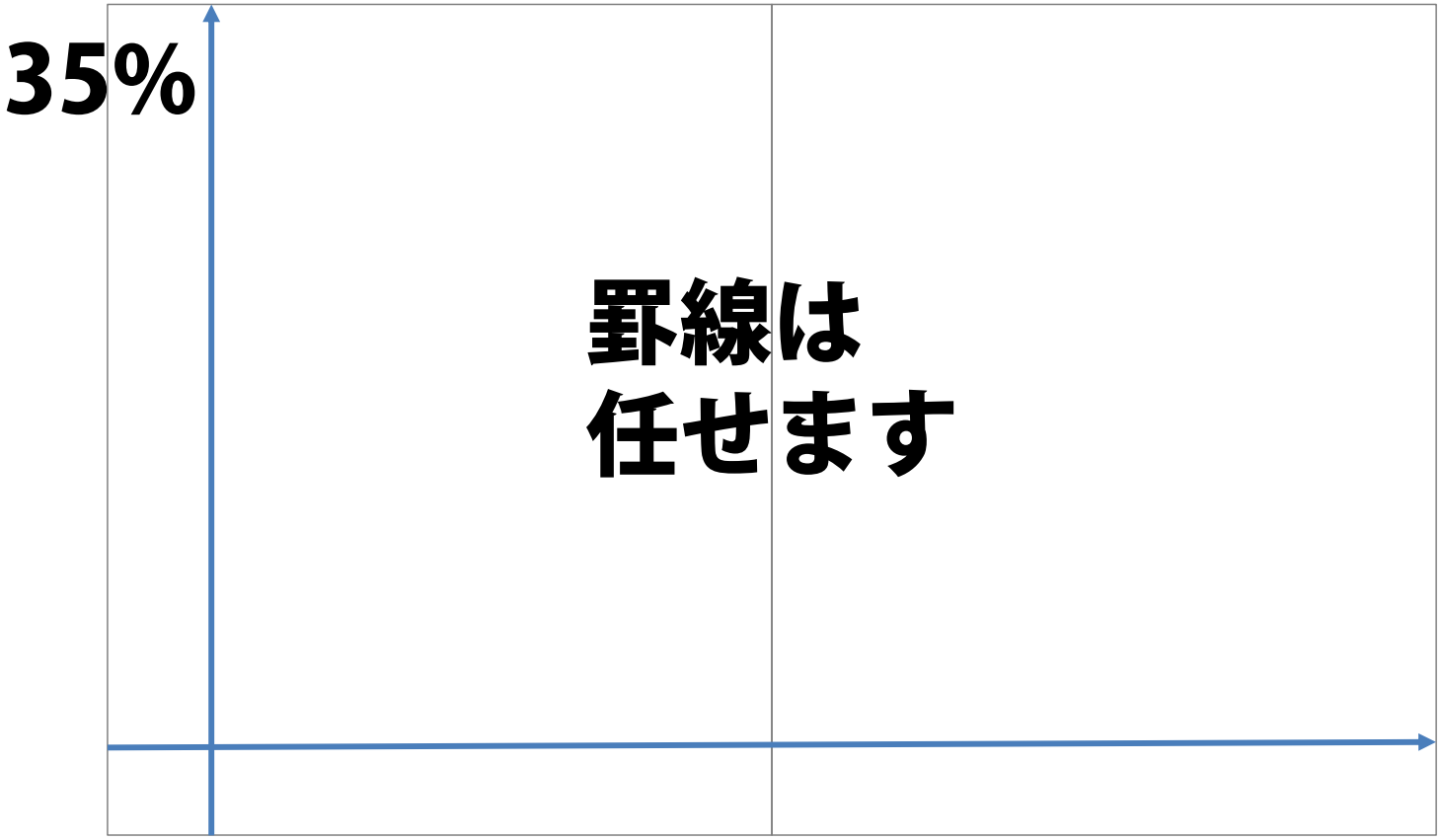
1　グラフをグループで協力して作成します

2　その後、地域住民の困り事を考えます

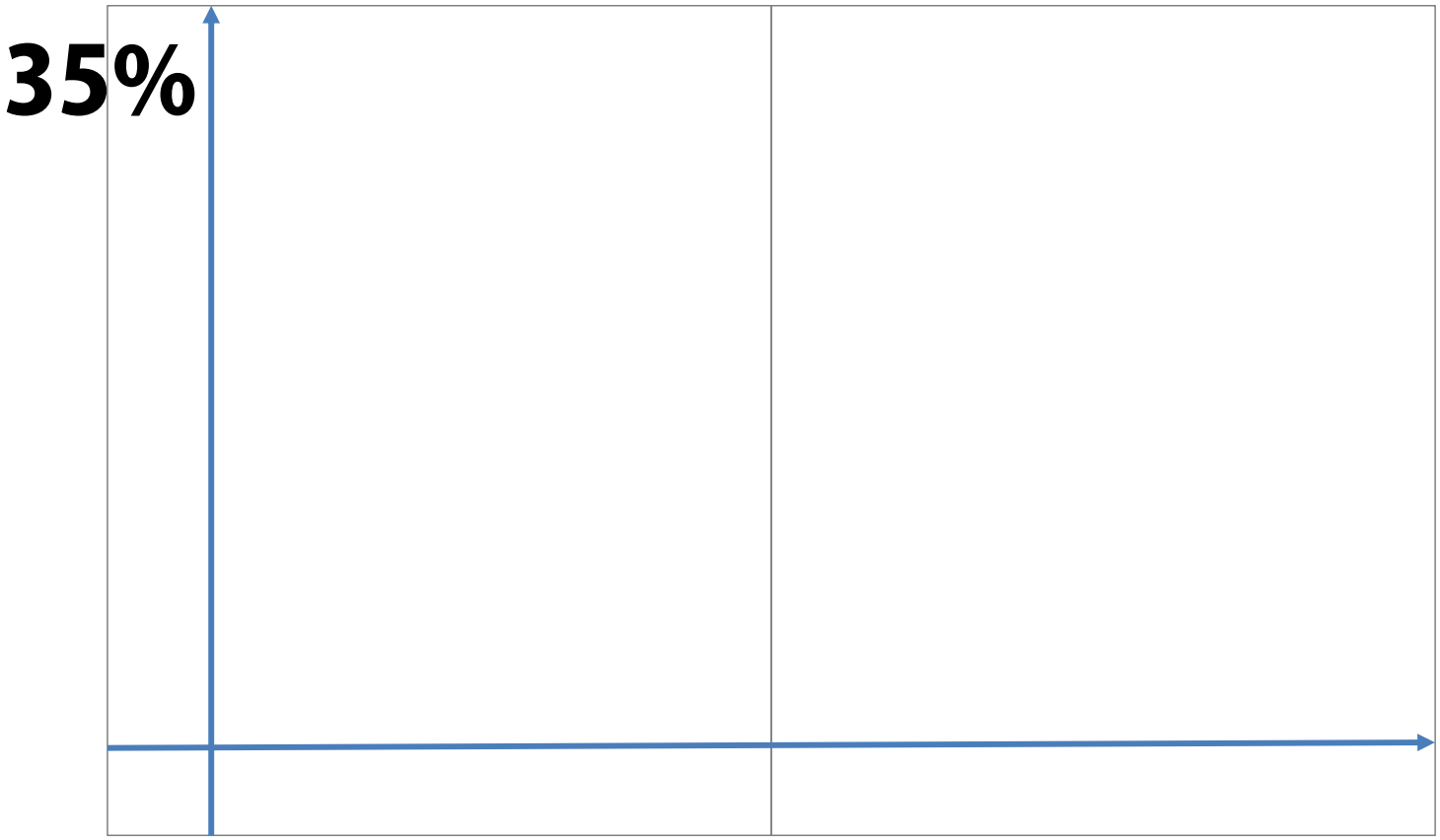
作成1



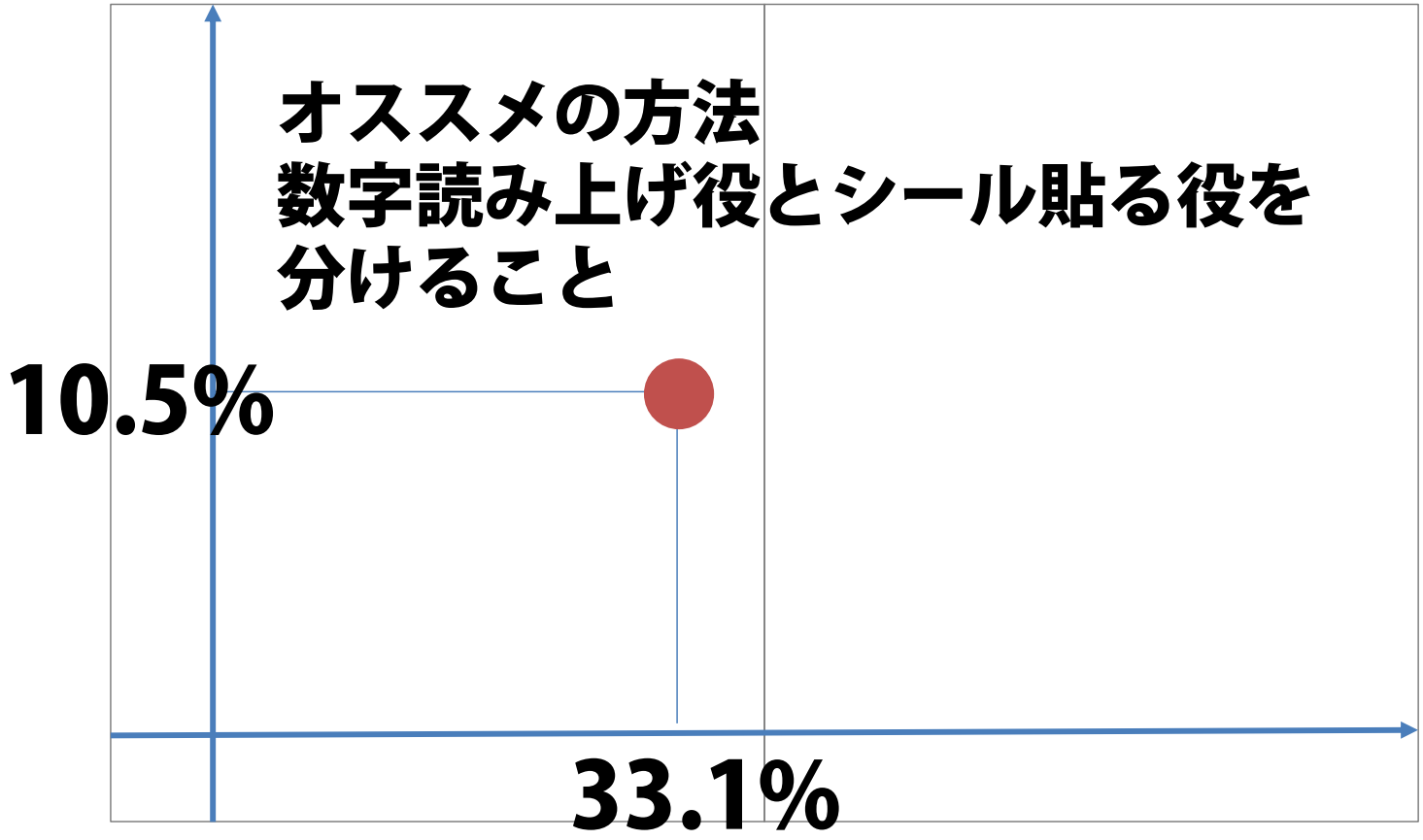
作成２ グラフのメモリを設定します



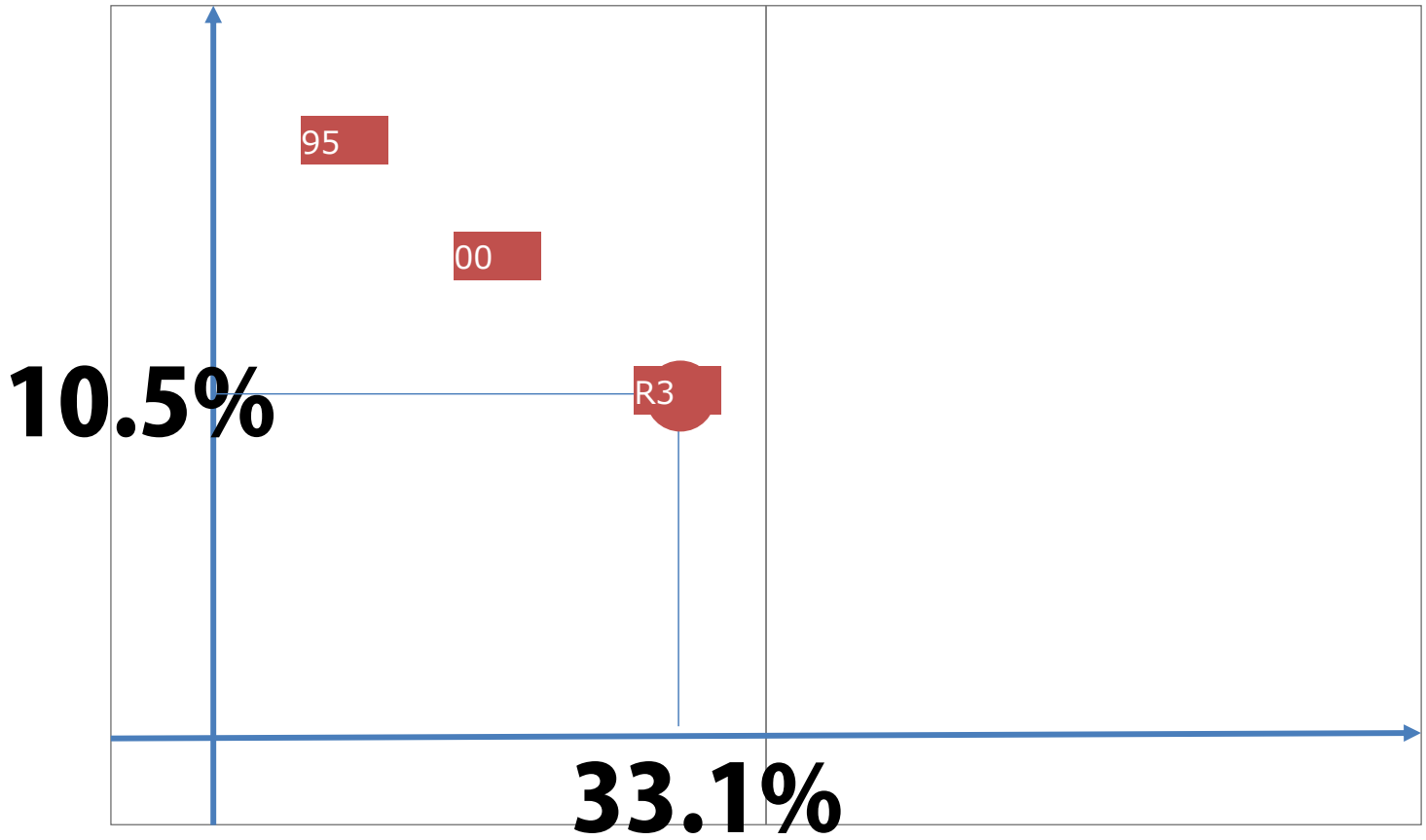
作成４　次に、シールに町名を書いていきます

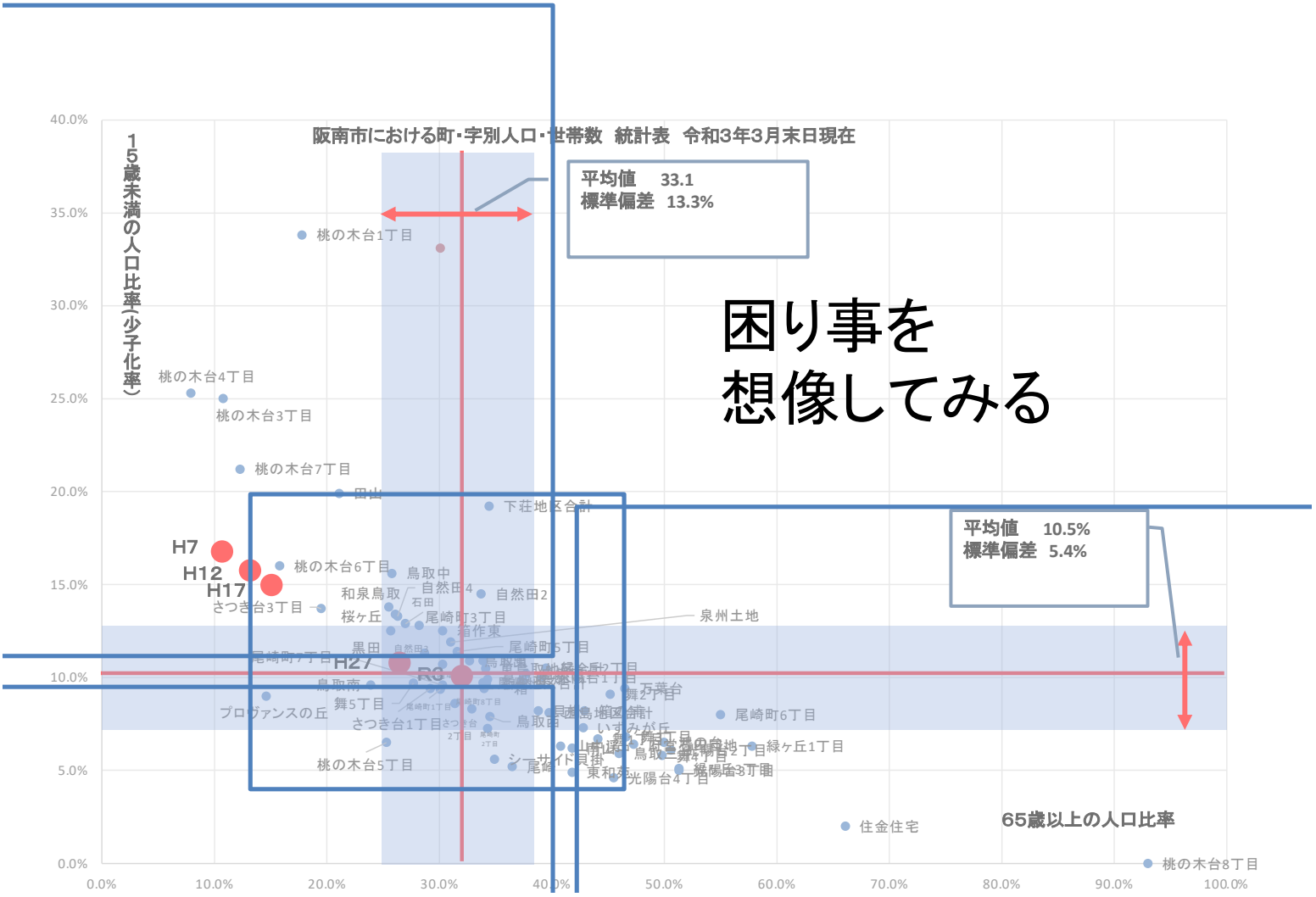


作成５　２人で協力して、貼り合わせます



作成６　最後に１９９５年～２０２０年の予想を書き込みます




阪南市における町・字別人口・世帯数　統計表　令和3年3月末日現在
15歳未満の人口比率（少子化率）
65歳以上の人口比率
平均値　33.1
標準偏差　13.3%
平均値　10.5%
標準偏差　5.4%
困り事を
想像してみる
H7
H12
H17
H27
R3
桃の木台1丁目
桃の木台4丁目
桃の木台3丁目
桃の木台7丁目
桃の木台6丁目
桃の木台5丁目
桃の木台8丁目
田出
下荘地区合計
鳥取中
和泉鳥取
自然田4
自然田2
さつき台3丁目
桜ヶ丘
尾崎町3丁目
泉州土地
尾崎町5丁目
黒田
尾崎町7丁目
鳥取南
舞5丁目
プロヴァンスの丘
さつき台1丁目
鳥取田
尾崎町6丁目
緑ヶ丘1丁目
住金住宅
光陽台4丁目
0.0%
5.0%
10.0%
15.0%
20.0%
25.0%
30.0%
35.0%
40.0%
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%